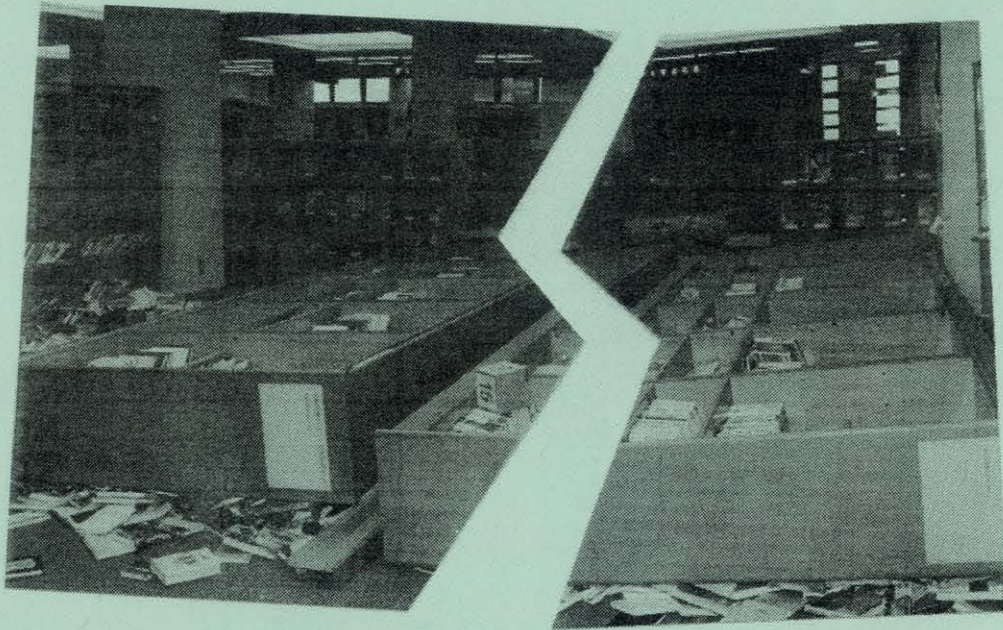


震災の記録

平成7年 1995.1.17



震災文庫

8

218

地区公共図書館協議会

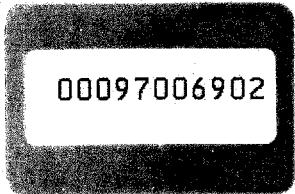
寄贈



震災文庫 8 - 218

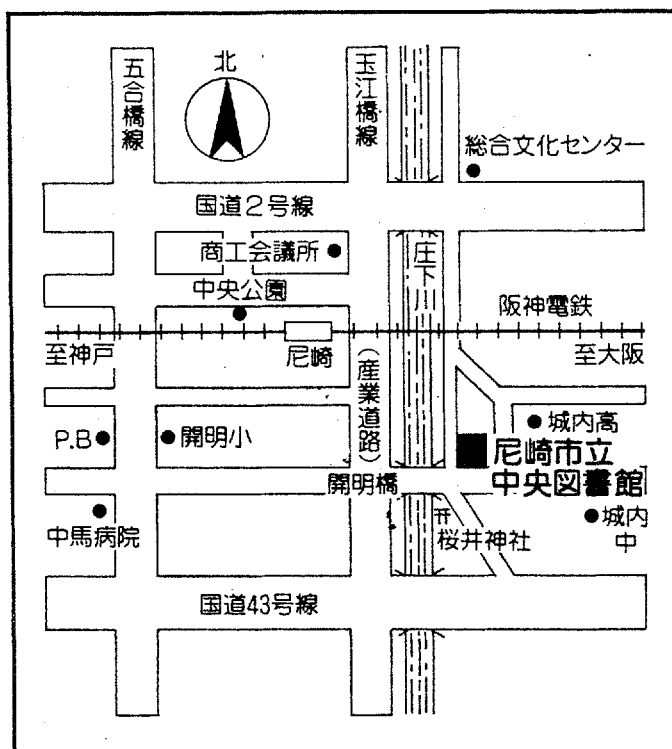
目 次

	頁
尼崎市立中央図書館.....	1
尼崎市立北図書館.....	9
西宮市立中央図書館.....	14
芦屋市立図書館.....	18
伊丹市立図書館.....	24
宝塚市立中央図書館.....	30
宝塚市立西図書館.....	35
川西市立中央図書館.....	45
三田市立図書館.....	54
猪名川町立図書館.....	59
阪神七市一町の図書館位置図.....	60



☒ 尼崎市の図書館

尼崎市立中央図書館



〒660 尼崎市北城内27

☎ 06-481-5244

震災をかえりみて

尼崎市立中央図書館

1 被害の状況

平成7年1月17日午前5時46分、マグニチュード7.2、壊滅的な被害をもたらした「阪神・淡路大震災」。

本市も大きな被害を受け、当日午前6時10分にはいち早く災害対策本部を設置し、混乱が続く中、全職員がそれぞれの業務に当たってきた。

図書館においては、図書館を囲む白壁に亀裂が入り、館内においても3階の参考図書が大部分散乱するなどの被害を生じたが建物本体には内外ともに大きな被害は被らず、この激震の中では救われた方であったといえる。

2 館員の安否

17日当日、館員は徒歩や自転車等長時間

かけて6人が出勤し、散乱した図書の整理にとりかかった。

災害対策本部から防災指令が発令され非常配備体制の下に、宿直で施設管理にあたることになった。

時間の経過とともに、徐々に震災の大きさが明らかになり、交通機関の状況や館員の安否の確認作業を開始したが、電話が不通で、最終確認は震災発生から1週間後のことであった。

また、本庁や関係機関との連絡は全て自転車に頼らざるを得なかった。

3 震災3日後開館

図書館としては、一日も早く開館したいとの思いを持っていたが、再開については他の社会教育施設等との調整を図り、3日間臨時休館として20日から再開することになった。

この時期は、受験生にとって最も大切な

時でもあり、その要望に応えたいとの思いからの開館であったが、断水状態でトイレも満足に使えず、暖房も十分ではないという中で再開ではあった。

しかし、庁内との調整の中で、当分の間被災者対応に職員の動員が避けられないことが予想されるとして、閉館時間を繰り上げて9時から17時の開館とし、通常の開館時間に戻ったのは5月26日であった。

4 避難所への配置

当然のことながら、こうした大きな災害時には、救援活動等の被災者への対応が優先されるところであり、男女を問わず、24時間体制で避難所に配置されることとなった。

図書館の割当ては、震災直後は3避難所で、夜は男子、昼は女子職員で対応した。

ただ、その割当場所も、日によってくるくる変わり、その日その日のやりくり算段

での対応を余儀なくされた。

5 自動車文庫活動も休止

震災直後から、市内、特に東西の幹線道路は一方通行等の交通規制が敷かれ、市内を自由に時間どおり走ることができないことから、B M 活動は休止せざるを得なかった。

また、大きな被害を受けた地域に、この時期 B M 活動は遠慮すべきであるとの思いもあった。B M が再開したのは、5月23日であった。

更には、配本所としている園田地区会館が避難所となり、通常の開館業務ができなかったため、これも休止せざるを得なくなり、再開したのは5月19日であった。

また、阪神間7市1町とは連携をとりながら対応してきたが、メールカーもしばらくストップせざるを得なかった。

6 神戸市民の受け入れ

最も大きな被害を受けた神戸市の図書館は、機能停止を余儀なくされたことであろうし、その回復にはかなりの時間を要することは十分予測できた。

このため、神戸市民を受け入れていくことをミーティングで決定し、希望する神戸市民には、貸出カードを交付することとした。

こうした対応は、平成8年3月末日まで続けた。

7 被害家屋調査・避難者実態調査

避難所への救援と並行して、被害家屋調査及び避難者実態調査の関わりもあった。

家屋調査は、住宅地図を頼りに市内を回り、屋根がすっぽり抜けた家、傾斜した家など、被災程度を判定・判別するものであるが、調査する中で、住民の声を聞くにつけ、行政は被災者への対応や災害復旧業務

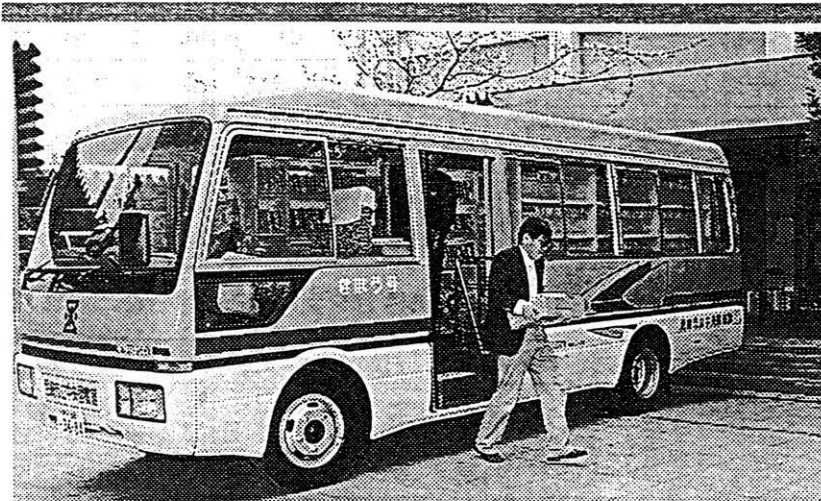
を何よりも最優先させなければならないことが実感させられた。

8 避難所への配本

こうした状況下において、図書館としても被災者の方々に何か力になれることがないかと検討を重ねた。

結果、読書に楽しみを求めてもらおうと
いうことで、避難所への配本を決定した。

幸いにして、日頃から市民のご好意により、図書館に寄贈していただいた図書や県立図書館を通して全国から寄せられた図書が多くあり、これら数千冊を避難所に配本し、読書を通じて幾らかでも楽しんでいただくこととした。



トビックス

ひとときの憩いに読書を

避難所へ自動車文庫車が配本

本市では、新しく購入した自動車文庫車きぼう号の初めての仕事として、避難所で避難している人に少しでも読書を楽しんでいただくために、配本して回りました。

配本した本は、以前から市民の皆さんのご好意により市内の図書館へ寄贈していただいたものや、全国の図書館から兵庫県立図書館を通して寄せられたもの。これら数千冊の本を有効活用していくために、きぼう号が比較的避難者数が多い十六の避難所に配本しました。本の内容は、小説や文芸書などできる限り読みやすいものです。今後は避難者からの希望に応じて、避難者数が少ない避難所へも、きぼう号が巡回して、順次配本していく予定です。詳しくは中央図書館 ☎481-5244へ。

避難所へ100冊程度の本を運びます

9 　　いつ正常にもどるのか

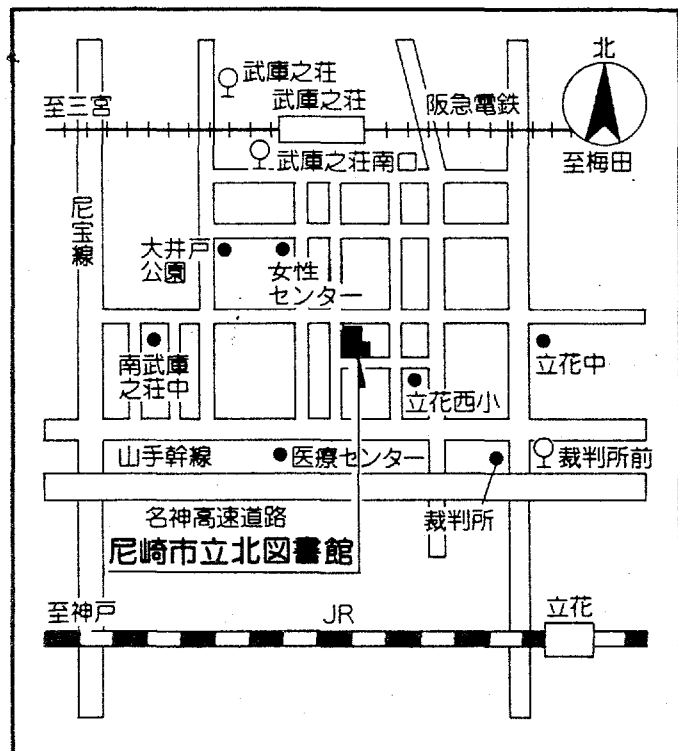
　　いつ震災前の状況にもどすのかは、全館員が持ち続けた思いであった。

　　社会教育部内においても、ことあるごとに一日も早く通常にもどしたいとの意見が現場サイドから数多く出されていた。

　　しかし、まだ被災者への救援作業が残されているとの理由から、日が過ぎてゆき、結局、社会教育施設全てが足並みを揃えて元通りになったのは、5月26日からのことであった。

　　以上

尼崎市立北図書館



〒661 尼崎市南武庫之荘3丁目21-21
☎ 06-438-7322

1 被害の状況

1月17日早朝、兵庫県南部を襲った直下型地震は、神戸・阪神間を中心に広範囲にわたって被害を及ぼしました。

尼崎市でも家屋の倒壊、堤防の破損、ライフラインの寸断、火災の発生など市内全域にわたって被害を受け、死者27人、負傷者6,641人を数えています。家屋の被害は全壊が9,369世帯、半壊が36,875世帯で鉄筋や鉄骨のマンションなども倒壊しました（5月31日現在）。

避難者は一番多いとき（1月18日）で、小・中学校など91カ所の避難所に9,494人が避難しました。

公共施設でも柱や壁に亀裂が入るなど被害を受けました。北図書館も例外でなく、建物の内外に多数の亀裂が入るなどの被害を受けましたが、幸い使用できない状況は免れました。内部は開架資料が落下・散乱し、書架は一部横ずれを起こしました。特

に 2 階 の 書 庫 は ス チ ー ル 製 書 架 が 変 形 ・ 倒
壊 し 、 資 料 が 落 下 ・ 散 乱 し 足 の 踏 み 場 も 無
い 状 態 で し た 。 主 な 被 害 状 況 は 次 の と お り
で す 。

- | | | |
|------|-------------------------|----------------------|
| (1) | 建 物 外 壁 タ イ ル 浮 き | 2 1 5 m ² |
| (2) | 建 物 外 壁 タ イ ル 亀 裂 | 6 1 . 4 m |
| (3) | 建 物 内 壁 モ ル タ ル 浮 き | 1 0 m ² |
| (4) | 建 物 内 壁 モ ル タ ル 亀 裂 | 8 9 . 6 m |
| (5) | 天 井 板 破 損 | 4 カ 所 |
| (6) | 照 明 器 具 破 損 | 1 カ 所 |
| (7) | 展 示 ケ ー ス ガ ラ ス 破 損 | 2 台 |
| (8) | 展 示 パ ネ ル 破 損 | 1 台 |
| (9) | 木 製 書 架 破 損 | 3 式 |
| (10) | ス チ ー ル 製 書 架 変 形 ・ 破 損 | 1 1 式 |
| (11) | 開 架 室 資 料 落 下 | 約 3 万 冊 |
| (12) | 書 庫 倒 壊 に よ る 資 料 の 落 下 | 約 4 万 冊 |

2 再 開 に 向 け て

職 員 も 多 く が 被 害 を 受 け ま し た が 、 7 時
半 頃 か ら 徒 歩 や 自 転 車 等 で 出 勤 し は じ め ま

した。出勤した職員で散乱している書類等の整理、倒壊した備品類の現状回復等を行いました。電話回線が混乱している状況の中で、本庁への連絡、職員の安否の確認などに忙殺されました。当日出勤できたものは、交通機関の不通により約半数の6名でした。

防災指令による24時間非常配備体制により、その夜から宿直態勢が始まりました。1月19日以降は館の夜間管理を廃止し、避難所へ出勤して収容事務にあたりました。その後、避難所の実態調査、家屋調査等の応援が続き、5月31日に震災関係の応援は一応終わりました。

図書館の再開にあたっては、応急復旧のため1月17日から19日まで臨時休館にし、比較的被害の少なかった中央図書館から応援を得て開館準備を行いました。主な内容は次のとおりです。

(1) 書架から落下した資料の復旧

(2) 書庫の資料を集會室、3階ロビーへ移動

(3) 倒壊した備品の復旧

その結果、震災4日目の1月20日、開館時間の短縮、一部業務を当分の間休止するなどして開館しました。変更、休止したサービスは次のとおりです。

(1) 開館時間

午前9時～午後5時に変更（6月8日以降は通常開館）

(2) 休止したサービス

① お話し会等の各種行事（3月から再開）

② 書庫資料の提供

③ 北図書館だより「ほうれんそう」の休刊（4月号より復刊）

④ 図書の予約業務（3月から再開）

(3) 震災による貸出資料、貸出券の被害等に対する処理

① 貸出資料の損傷及び消失について弁

償の免除

- ② 貸出券の即時再発行
- ③ 貸出券発行時における住所確認のための証明書不要処理
- ④ 7市1町以外の居住者で本市に避難している方の登録受付

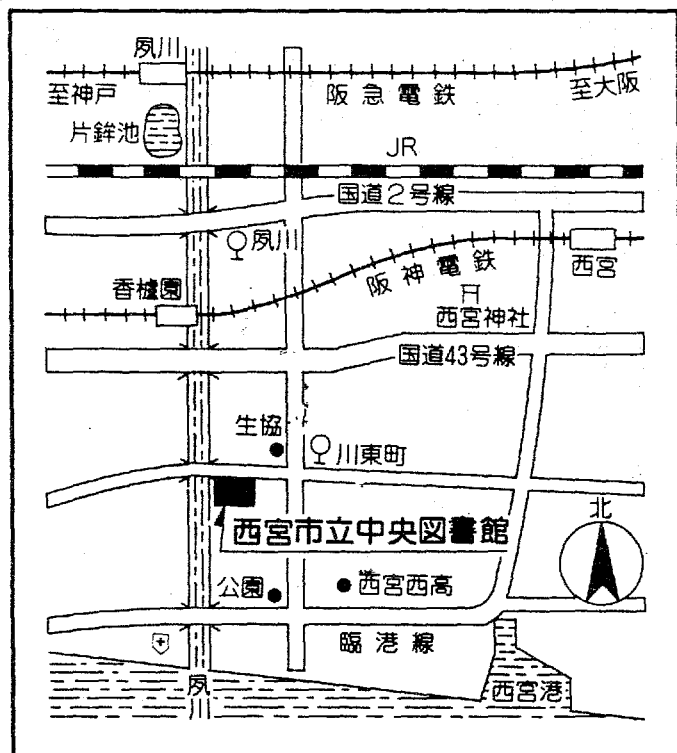
3 復旧事業

書庫のスチール製書架の修理は、国庫補助の査定が済んでから行わなければならなかったため、3月21日になり、頭つなぎをひと回り大きなものに変更し、壁に固定しました。資料は開館中に少しずつ配架し、可能な部分から出納を始め、約10日で配架が終わりました。

建物については、平成7年度実施ということになり、平成8年2月26日から3月14日まで休館し、内外壁及び内装の修復をしました。以上で震災関係の工事等が全て完了しました。

☆ 西宮市の図書館

西宮市立中央図書館



〒662 西宮市川添町15-26

☎ 0798-33-0189

1. 施設等の被害

(1). 中央図書館

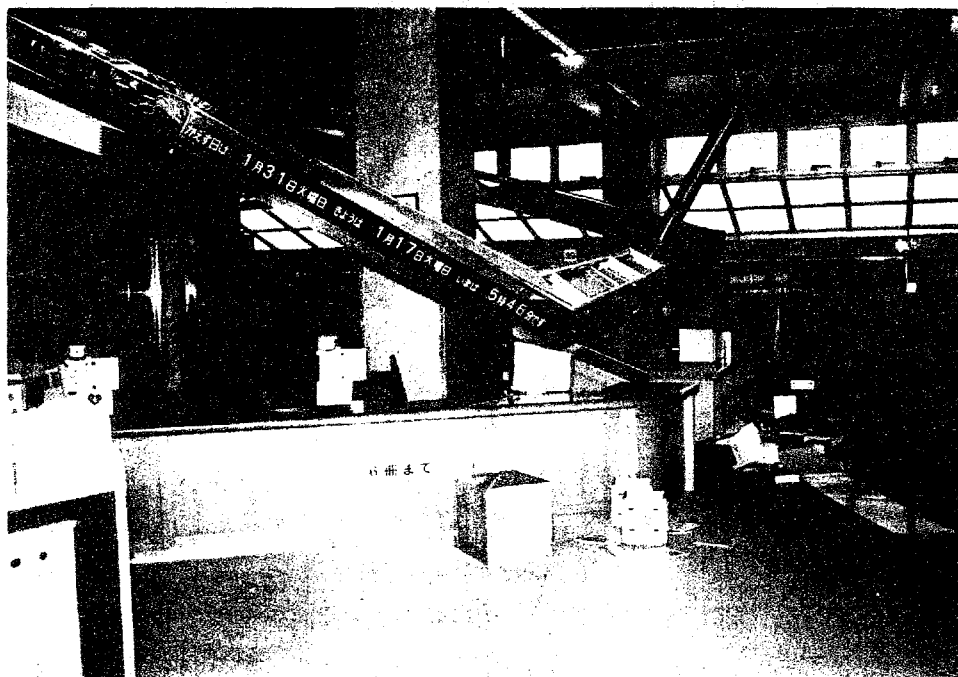
①. 建物・設備

図書館のある教育文化センターでは、建物外周のレンガブロックが隆起したり、駐車場や駐輪場が地割れし、駐車場出入口門扉も隆起のため開閉ができなくなった。

建物については、外壁・内壁全体に一部剝離がみられ、亀裂も多数生じ、染み込んだ雨水で開架室のカーペットが濡れるなどの被害があった。

1階開架室では、児童コーナーの防煙ガラスが一部破損、落下したり、天井から吊り下げたカウンターサインの落下で、貸出端末機が破損した。さらに、2階の排水管の亀裂によるものか、1階カウンターへの水漏れがみられた。また、2階集会室の吸音ボードの剝離及び視聴覚室の目録ケースの転倒による破損、3階学習室の天井ボード・空調吹出しカバーが一部落下するなどの被害がみられた。

事務室では、目録カード用コピー機が転倒、破損したほか、ロッカーやキャビネットなども転倒し、ほとんどの書類などが落下し、散乱状態。油圧の油漏れのため煙が発生し、図書館用エレベーターが一時使用停止となることもあった。



②. 書架・資料

開架室の木製書架については、筒型新着図書用書架が転倒したが、その他の書架は傾斜型書架のためか、位置が20~30cm移動したものの転倒はしなかった。しかし、約10万冊の図書が落下し、散乱した。また、地下の移動図書館用書架が転倒し、ほとんどの図書が落下し散乱した。さらに、閉架室のスチール製書架は一部が傾き、特に西向き棚の図書を中心に、約10万冊の図書が落下し、散乱した。

視聴覚室のスチール製書架が一部傾き、ビデオやCD、カセットが落下散乱し、一部損傷したものがあつた。。

機械室の油槽の油の流出で書庫の図書が一部汚損したが、開架室も含め図書自体には大きな被害はなかった。しかし、家屋の倒壊などにより、貸出中の本で紛失したものが、約3.5千冊（平成8年2月末現在届出分）あった。

③. コンピューターシステム

停電によりホストコンピューターは停止し、カウンターサインの落下などにより貸出端末機が破損したものの、中央処理装置・主記憶装置などのハードディスクやデータ、ソフトウェアには被害はなかった。

(2). 北部図書館

1階では、ワークルームのスチール製書架の位置が20cmほど移動した。2階開架室の壁面は亀裂が走る損傷を受け、書架とカウンターの一部が転倒、図書資料と事務用品のほとんどが落下し、散乱した。また、電気・ガス・水道の供給は停止されたが、電気は震災当日の午後1時に復旧した。

(3). 分 室

越木岩分室では、入口玄関前に段差が生じた。室内では返却書架が転倒し、約5千冊の図書が落下し、散乱した。

浜甲子園分室では建物周囲で液状化現象が生じ、スロープ部分に段差が生じたが、室内では転倒した書架もなく、落下した図書もなかった。

段上分室では建物周囲に段差が生じ、東西の書架が全て転倒し、ほとんどの図書が落下し、散乱した。

上ヶ原分室では建物周囲の地盤が陥没し、入口がひび割れ、カウンターサインの一部が落下した。また、書架の一部が20cm移動し、図書のほとんどが落下し、散乱した。

(4). 移動図書館

ワークルームの書架の転倒で、図書が落下し、散乱した。移動図書館車積載の図書も落下し、散乱した。また、道路交通マヒや駐車地施設損傷、あるいは一部駐車地が避難所や仮設住宅敷地となったため、当分の間、出動不能となった。

2. 各種事業・施策の休止、縮小

図書館の休館に伴い、「お話し会」や「ビデオ映写会」、障害者同士の交流も含めた月1回の読書会である「百雀会」、「対面朗読」、「郵送貸出」も休止となった。また、平成6年度4回の開催を予定していた対面朗読ボランティア対象の研修会も、2回しか実施できず、7年度も引続き中止した。7年度の「市民読書会」も、図書館集会室が避難所になっていた関係で中止となった。

3. 図書館も避難所に

地震直後、50人余りの市民が一時避難していたが、停電が続くなかでは危険でもあり、病気のご夫婦を除き、避難所となっている西高校へ移動してもらった。その後、教育文化センターが、第2次避難所として1月28日に被災者を受入れることになる。そして、3月26日には図書館集会室も避難所となり、8月20日閉鎖となるまで、避難所としての役割を担うこととなった。

4. 復旧そして再開に向けて

地震当日出勤できた者は、全館で18人。翌日には、半数の28人となる。とりあえずは、散乱した事務室や落下した図書の整理などを行う。幸い、コンピューター本体やデータも正常に稼働し、異常のないことが判明する。これで、図書館再開への一つの障害が解消し、学校などの避難所業務に従事する職員以外で、散乱した図書を、分類番号順に書架に戻す作業を進めた。出勤できる職員も増え、約2週間で排列作業を終了し、再開への準備は整う。

2月1日、再開に向けての検討会議を開催し、2月7日からの図書館再開を決める。しかし、水道が復旧していなければトイレが避難者と共同使用となるため、避難者の感情や他の公共施設の再開状況を考慮し、本部との協議の結果、開館はもう少し延ばすことになる。

5. 再開

ただ、家が倒壊し勉強する場所にも困る受験生のことを考え、学習室のみ先行再開することになった。水も出ず暖房もない寒いなか、初日は24人と去年の1割程度、2月平均でも前年の1/4程度であった。

こうして学習室は再開したものの、図書館の開館が延期となったため、通常4月に行う蔵書点検を、2月6日から17日までの間に実施する。

この間、臨時職員にも連絡をとり、再開すれば従前通りの勤務が可能か確認する。また、館内の設備や図書館前舗道の補修も行われ、2月18日の再開が確定する。図書館利用者と避難者との間でのトラブルが発生しないよう配慮しつつ、周辺状況も考慮し、学習室と同様、開館時間は午前10時から午後5時までとする。

このようにして、中央図書館・北部図書館は2月18日に再開。中央では、暖房もなく移動トイレを使うという状況のなかで、635人の貸出人数があった。一方、北部は震災の被害も少なかったためか、初日は390の方が貸出しを受けられた。

また、移動図書館も、仮設住宅が建設されたり避難場所になっている箇所を除き、3月6日から再開。場所によっては200人近い人が来られた。

最後に残った分室も蔵書点検を済ませ、避難所になっている分室についてはその代表者に再開の協力を求め、浜甲子園・段上分室は3月14日、越木岩分室は3月24日再開することができた。最後となった土ヶ原分室も、避難者の方が仮設住宅等に移られた結果、8月15日に再開できた。

6. 各種事業も順次再開

この間、休止していた事業のうち、「郵送貸出」、「対面朗読」は中央図書館再開時から、また幼児対象の「お話し会」は5月から再開する。そして、6月2日からは、中央図書館・北部図書館の開館時間も、元の午後6時（平日）までに戻すことができた。

避難所も8月20日をもって閉鎖となり、9月19日には視聴覚室を再開、「百雀会」、「ビデオ映写会」も平成8年1月からと、震災後1年を経て、ほぼ元通りの図書館サービスを提供できるようになった。

7. 最後に

年が明けた平成8年1月から3月まで、教育文化センターの災害復旧工事にとりかかる。この間、工事に伴う騒音、振動が一番ひどい時期に休館が必要となり、通常4月に行う蔵書点検を昨年引続き2月に行った。

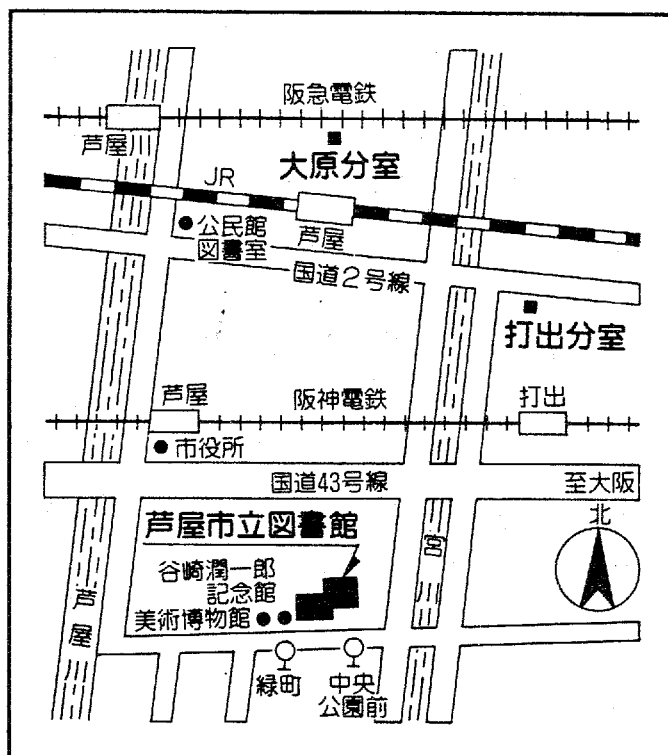
このようにして建物や設備は元に戻りつつあるが、図書館の利用は、震災前に比べると、まだ8～9割程度である。

本市においては、平成8年秋に甲東園駅前に、また平成10年度には高須に分室の開室を予定している。その後に西宮北口地域で相当規模の図書館整備をと、現在関係部局と協議を進めているところであり、今後さらに図書館網が整備されていく予定である。

震災による財政状況などによりいろいろと課題を抱えてはいるが、生涯学習施設のなかでの中核施設としての図書館を、さらに暮らしの中に根づいたものにするために努力していかなければならない。

芦屋市の図書館

芦屋市立図書館



〒659 芦屋市伊勢町12-5

☎ 0797-31-2301

芦屋市立図書館 館長 下橋 洋一

[題名] 「日常が非常時を制する ～公立図書館が果たすべき役割～」

1 図書館の被害状況

(市民の死者 419人。建物被害 全壊・半壊合わせて50%超、一部損壊を加えれば、90%以上に被害。.....いわば街全体の崩壊。)

(1) 本館の建物 完成後8年の芦屋市立図書館本館の基本構造はしっかりと生き残る。

中庭に面した参考調査室の壁が逆三角形にひび割れて浮き上がり、この壁が支えていた大窓のはめ込みガラスが粉碎された。その周辺の床は撓んで浮き上がった。丸柱数本に数箇所ひび割れ。窓枠の蝶番不調多数。録音室の機械ボックスがドアに向かって真っ逆様に倒れ、開閉を妨げる。壁時計・額類の落下あちこち。外壁のクラック数箇所。

(2) 駐車場 路面ほとんど不等沈下、亀裂走る。全面修理必要。

(3) 敷地内上下水道 地下埋設部分が数箇所断裂。

(4) 書庫内 図書かなり散乱。備品損壊。3階書庫内の手動式集密移動書架ストッパー不調。使用可能なるも修理必要。

(5) 開架室(一般・児童) 図書あらかた散乱し、書架間は足の踏み場もなし。書架は南北方向に立ててあるため倒れず。ただし、参考調査室は書架が東西方向に立ててあるため、北向きにドミノ様に傾き、図書散乱。

(6) 事務室 書類・備品類散乱。書棚損壊。

(7) 打出分室 部屋の構造は無事。書架倒れ、図書散乱。しかしこれを取り込んで建てられた打出教育文化センターが大損壊を受け、長期の修理期間を要するため、分室は営業できない状態。

(8) 大原分室 大原集会所の中にある分室自体は無事。書架が倒れ、図書散乱。集会所が避難所となり、分室の営業は不可能。

(9) 図書 震災による図書の滅失は、図書館内では4冊。

(10) 職員 全職員無事。ただし全半壊の家屋の下敷きになったケースあり。

3人の係長は8～9時に出勤。館長は遠距離のため、当日の午後職場に到着。その他の職員は、市内の人から順次出勤。

2 避難所の経営

(1) 避難所特別指定

図書館は防災計画による避難所ではなかったが、その日の夕方、特別指定を受ける。即刻準備に取り掛かり、その夜から避難者の受入れを始める。混乱の中で、未経験の業務を整然と遂行するために、即時に次の基本方針を樹て、実行した。

- 避難者リストを作成。入所希望者は自筆でリストに署名。これにより、ほぼ 100% の入所・退所管理できる。
- 即日避難所日誌をつける。業務遂行の参考とするとともに、後日の記録となる。当番職員が記帳する。
- 避難者の生活スペースは、集会室・小集会室・閲覧室・ロビーのある2階とする。1階は、ガス暖房なし、余震被害予測ありで、物資置場・配給スペースとなる。

(2) 運営状況

- 第一段階 1月17日(火)～22日(日)
緊急対応。管理職4人による責任運営。近隣在住職員が順次避難所管理業務に加わる。
- 第二段階 1月23日(月)～27日(金)
避難所管理業務に全職員対応。基本ローテーション確立。囑託職員により、開架室・書庫等整理業務着手。
- 第三段階 1月28日(土)～
避難所管理業務継続。災害対策の他の部署へ3人の職員派遣。図書館再開準備。

(3) ライフライン

- ア 電気は即日復旧。
- イ 水道・ガスは3月1日復旧。その間、飲料水・生活用水の供給を受ける。それまでガス暖房なく、1階管理スペースでの徹夜勤務厳しい。職員の才覚で、始めに練炭と火鉢、次いで灯油ストーブを都合。
- ウ 食糧は始めの数日間は職員の分はなし。職場親睦会買置きの菓子類と近隣職員差入れの食事等によって凌ぐ。冷たい食糧が続いたので、独自にトースターと電子レンジを調達し1階エントランスに置いて、入居者の利用に供す。
- エ 情報は、翌日から広報課により市民向け災害対策情報紙が発行されるほど見事な対応。行政機関間情報流通は途絶えていたので、こちらから出向いて情報の受発信に努める。
- オ 仮設便所がすばやく配給される。

(4) 勤務体制

- ア 正規職員は避難所経営、嘱託職員は図書館再開準備業務と基本的分担。
- イ 嘱託職員は日勤（通勤）。家が遠い人は、通勤に苦勞が伴う。
- ウ 正規職員は通勤時間のかかる人も多く、24時間・48時間・72時間連続勤務も取り入れてローテーションを組む。始めは週7日勤務、次いで6日勤務。4月から通常の勤務時間だが、避難所終了時までには女性職員を含めて夜間勤務を継続。（館長は自らを24時間避難所に拘束。4月からは週休一日を取得。）

3 図書館の再開へ

(1) 回帰の軌跡

図書館システム復活の歩みは次の通りである。

- 1. 17 ライフライン停止。臨時休館命令。避難所特別指定。
- 3. 1 水道・ガス復旧（ガス暖房可となる）。
- 3. 8 本館営業再開。開館時間は短縮（10:00～17:00）。2階スペースなお避難所。
- 4. 26 自動車文庫営業再開。4ステーションに集約して重点配車。利用多数。
- 5. 6 全避難者退去。避難所終了。
子供向け事業「お話の会」「絵本の会」再開（毎週土曜日）。
- 5. 9 本館営業時間は元どおり9:30～18:00（土・日は17:00）。
- 5. 17 本館2階スペース供用再開。
- 5. 25 元入居者による「震災を語る会」開催。
- 6. 7 大原分室再開。（打出分室1年間休室）。
- 7. 7 金曜シネサロン再開。

(2) 運営の精神

図書館の日常運営も避難所の経営も、その精神は一つである。

文化を形成する基礎的な拠点である図書館は、他の行政機関以上に奉仕に徹しなければならない。そのためには、職員自らが生涯学習に勤しみ、奉仕の心を養って置かなければならない。

図書館にとって大切なのは、「利用者は自ら学んで市民文化形成に参画する主体者」とであると認識して、敬意を以って接することである。そうすれば自ずから態度は誠意に溢れ、その見返りとして利用者の協力が得られるのである。利用者の協力なしでは、図書館経営は成り立たない。

第一に、図書館施設を静粛に、清潔に保つことにおいて協力を求める。よい図書館で

あるためには「まさにあなたのご協力が必要なのです。」という精神で臨めば、協力の得られざることはない。

第二に、図書館利用のルールとは、いわば利用者総体の「申合せ事項」なのであって職員が上から訓戒を垂れるようなものではない。職員がよく難渋するのは、「利用者に注意を与えなければ...」と焦るからである。きつい言葉になってしまったり、語り掛けを諦めてしまったりする。しかし、市民の財産をお預かりして、市民の付託に応じて奉仕するのであれば、明かるい気持で相手の感情にしみいるように「ご協力を」と呼び掛けられるはずである。本質は「協力要請」なのである。

第三に、図書館法にもある各種の事業を、市民のボランティアで実施してもらえる。

「皆さんのお力でもっと活用してください」と呼び掛ければ、市民は必ず応えて主体者として図書館に関わってくれる。

日頃からこのような精神を以って図書館運営に当たっていれば、たとえ災害に見舞われ、急遽避難所を運営することになったとしても、何のあわてることがあるであろうか。たとえ、物質的な備えが全くなかったとしても。

(3) 図書館の姿

図書館は行政の中核からは、ある意味において遠い。専門機関であるだけに、その運営の内実は、外部からは分かりにくい。このわかりにくさが原因となって、図書館の評価に影響したり、図書館運営の困難を惹起したりする。だから今まで図書館側は外部への説明を「いくら説明してもわかってもらえない」と諦める傾向があった。だから今まで図書館内部の軋轢を克服するに苦労があった。

だが、実は逆なのである。われわれには理解・認識を求めるという役割があり、より親しまれる図書館にしていく大きな楽しみがある。すぐ実現するには無理な問い掛けや、すぐ実施するには不可能な要請に対し、この時をチャンスとして、(言い訳をするのではなく) 一歩前を出て「説明」し、転回点を紡ぎ出すのである。逆に、周囲に理解者・協力者を「見出だす」のである。その機会にこそ、奉仕の精神と、職員間協力の精神に満ちた職場を創り出すのである。

天災は単に災いなのではなく、天慮がもたらした試練であり、学ぶ機会なのである。

(4) 感謝

食糧供給等ライフラインの維持に携わってくれた人々、炊出し等に真心を届けてくれた人々に出会い、対話し、別れ際には最敬礼で見送り続けた。そうせずにはおられなかったのである。この世がこんなにも多くの善意に満ちていることに感動を覚えずにはいられなかったのである。

4 復興

(1) 非常時の力

われわれは避難所経営に入居者の協力を得ることができた。当初から隣接する自治会の会長さん、ご近所のお世話役さんから、いろいろ目配りを頂いた。次いで、始めの混乱が治まってくると、世話人会を組織してもらうことができた。職員と入居者の間には心のパイプが繋がっていた。

われわれは図書館利用者の協力を得ることができた。49日間の休館を理解してもらったのである。3月8日の本館再開後も、「2階スペースを除く1階開架室部分のみ、開館時間の短縮、分室の休室継続、自動車文庫休業」を我慢してもらった。

平成8年に入ってから、さらに新たな協力を得ることができたのである。第一に、図書館のあるご町内自治会によって、毎月一回図書館敷地のクリーン作戦を展開してもらうこと。第二に、子育てグループによって毎週一回「子どものためのお話の世界」を創り出してもらうこと。子どもの心の癒しと大人の生涯学習の場として。

われわれは非常時にも日頃の修養の力を発揮することができたが、市民も又力をかしてくれたのである。

(2) はげまし

芦屋市出身の作家村上春樹氏と映画監督大森一樹氏から、予期せぬご好意を受けたのは平成7年秋のことである。

村上氏は出版社とともに、自作作品の朗読会を企画され、その売上金に自らも積み上げてご寄贈下さった。その日市内の大学講堂で上演され大好評であったが、午前中わが芦屋市立図書館をご訪問頂き、9月10日（日）は記念すべき日となった。

大森氏は氏の最新作のロードショー前特別観賞会を企画され、11月8日（水）に市内のサロンで上映された。翌9日には教育長室で、売上金に積み足してご寄贈下さった。

いずれも図書館資料充実に役立てさせて頂いたのである。

(3) 八戸コミュニティボード

人間にはこういうことができるものなのである。われわれは、数え切れないボランティアに感謝しながらも、そのうちから八戸のことを取り上げておきたい。

青森県八戸市は、阪神大震災に先立つ僅か3週間前「三陸はるか沖地震」に見舞われ大損壊を被っていた。しかし、阪神の報に接するや、市民自治創造グループ「八戸コミュニティボード」の人達は即刻支援を決定、たちまち「八戸市民ボランティア会」を組織して呼び掛け、10日後の1月27日には救援隊第一陣が出発、一昼夜を走り抜いて芦屋

に到着し、芦屋市立図書館を拠点に救援活動を展開。継続すること4次に及び、数百人の市民ボランティアが参画、うち延べ38人が選ばれて来芦されたのである。

この人達は、「救援とは心を贈ることだ」という真実を見抜いて、出発前から贈るものを考え抜き、回を追うごとに実情に見合う活動を展開された。避難所での炊出し奉仕を終えてひき揚げるとき、救援隊の代表は、芦屋市民に次のように挨拶されたのである「皆さんお世話になりました。本当にありがとうございました。」

このような精神が発露された典型例を紹介したい。3～4次に亘って運ばれ、避難所となった市庁舎とすべての小学校に飾られた鉢植えのポリアンサスである。一鉢一鉢に記されたメッセージが呼び掛ける「美しい街芦屋市の皆さんへ」。走り回る職員・ボランティアが、避難所の入居者が、この花にどれだけ心慰められたことであろうか。

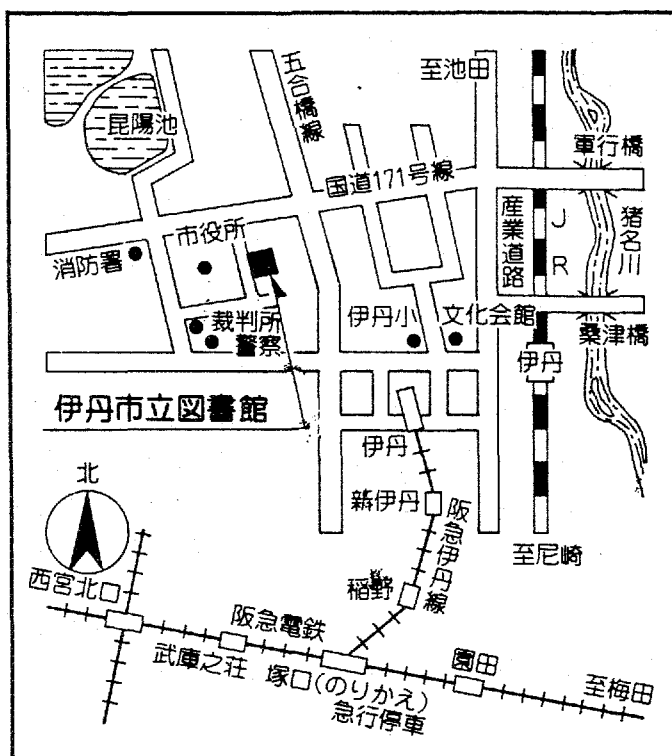
芦屋市立図書館と八戸コミュニティボードを窓口として、両市の交流は今も続いている。

(4) 心の復興

街が片付いていき、日常生活が普段に戻ったように見えても、震災の影は心身に残り続けている。心の復興はこれから長い道程を歩むことになる。自助努力と外部救援がなお必要であるが、その復興過程で図書館の果たすべき役割も又大きい。

㊦ 伊丹市の図書館

伊丹市立図書館



〒664 伊丹市千僧1丁目1-1
☎ 0727-83-2775

伊丹市立図書館

地上3階・延べ床面積 2,359㎡ 昭和46年竣工・単独館 蔵書数34万冊(1996.3)

【被害の概要】

- ・施設(建物) 1階行政資料コーナー窓ガラス破損(2枚) BM書庫通用口ガラス戸破損(2扉)
 - ・3階自習室ガラス扉破損(1枚)・コンクリート内外壁亀裂(数十カ所)およびタイル剥がれ・隣接の博物館との通路に亀裂段差が発生。

【設備の被害】

(本館)

- ・1階玄関ブラウジング、冷却水管破裂・ウォータークーラー倒壊、パーテーション
- ・利用者用ロッカー・諸器具倒壊・破損。・児童室、床浸水により床絨毯汚損、壁側木製書架が一部転倒。・行政資料コーナー、スチール・木製書架・戸棚傾倒・事務室、ロッカー・スチール書架傾倒・器具破損。・BM書庫、スチール書架(複柱型4本)倒壊。・2階一般室、スチール書架(開架)倒壊(全壊) 両面5連6段・20本片面7連7段・1本 展示ケース・閲覧机・椅子・展示用パネル板破損 目録ケース転倒により一部破損。個人文庫、スチール書架傾倒。
- ・3階放送室、レコード書架倒壊。放送機器断線。・3階視力障害者室、スチール書架傾倒。器具破損。・3階自習室、スチール書架(片面2連)傾倒。
- ・屋上機械室内タンク破損・切裂・水漏れ。

以上、各階・各部屋の図書・資料等は全て落下しており職員通用口からの通路も全て塞がれる状態であった。児童室の木製書架は一部壁側(固定せず)を除き床位置のズレ移動のみで、傾倒はなく無事であったが玄関ブラウジングからの浸水により落下図書の水汚損がひどかった。又、2階書庫(開架)、2・3層目書庫(閉架)は固定式スチール書架のため書架の破損はなかったが、開架のスチール書架は床・壁の固定が不十分であったため見るも無残な全壊状態であった。この光景を思い出す度に、地震発生が開館時間中でなかったことが幸いであったとつくづく思う。事務室のロッカー・スチール書架は全て傾倒し事務机の上に乗っており足の踏み場もない状態であった。又、カウンター上のコンピューター端末機も一部・転落はしたが、幸い破損は免れた。その他の諸器具・備品類も全て落下、散乱状態であったが、照明器具・壁掛けの絵画等には被害はなかった。

[南分館] 生涯学習センターの1階・複合施設

AV機器(ビデオカメラ)収納ラックの転倒により機器破損。閉架書庫の移動式書架(手動式)が脱線斜行し一時稼働不能。又、南北方向の書架の図書が一部落下。特に南北方向の揺れが激しかったようである。その他は特に被害なし。施設はまだ新しく、市内でも南部地区は比較的に被害が少なかったようである。

[伊丹分室]・[神津分室]・[池尻分室]

壁固定のスチール書架を除き書架は全て傾倒、図書は全て落下散乱状態であり、諸器具は一部破損。

【資料の被害】

水損図書（児童書） 6, 742冊

汚損図書（児童書） 1, 048冊

返却不能図書 1, 902冊 計 9, 692冊

なおレコードの一部も落下したが無事であった。

【休館の状況】

1/17（火） 阪神・淡路大震災

本館・BMは当分の間、休館。南分館は1/18・19日、休館。
各・分室は2月中旬まで休館。

1/20（金） 南分館、通常どおり開館。（ただし2/4まで開館時間9:30～17:00）

1/23（月） 本館・3階自習室のみ開室。

2/1（水） 生涯学習センター1階・学習室を南分館自習室として開放。

2/15（水） 池尻分室・業務開始。

2/16（水） 伊丹分室・業務開始。

2/17（金） 神津分室・業務開始。

4/5（水） 本館・業務開始。

4/11（火） BMの運行開始。図書館業務・全面再開

各ステーションの公園が仮設自転車置場・廃材・資材置場になったり震災復旧混乱の道路事情により運行不能を余儀なくされ、自動車文庫の再開が一番遅くなった。

【復旧作業】

1/17（AM 7:15）職員2名で被害状況確認後、直ちに玄関ブラウジングの冷却水管の破裂箇所を塞ぎ、出勤職員（7名）・応援職員（3名）・図書館協議会委員（1名）とともに児童室への浸水防止・排水に全力を尽くした。又、通用口の進入路を確保と事務室の一部整理作業を行った。2日目以降は、出勤可能な職員と生涯学習部の応援により各階・各部屋の整理復旧作業に終始した。特に作業で困難を極めたのが一般室のスチール書架の解体・撤去であった。又、撤去にともなう図書整理と移動は大変な作業量であった。新規の書架・決定・発注にいたるまでの財政当局との折衝、書架配置・レイアウトの検討など震災後の混乱のなかで試行錯誤の連続であった。又、浸水・汚損図書の廃棄処理作業は図書館職員として辛い作業でもあった。木製書架への決定は耐震性に配慮し、耐久性・堅牢性に優れているためであり傾斜型・床止め措置を採用することにした。ただ木製書架は木材の手配、手作りであるため納入が三月末となり、本館の業務開始時期も併せて4月始め予定となった。職員とアルバイトは4月初旬の開館にむけて精力的に作業、男子職員は廃材撤去作業および災害実態調査に従事のため、蔵書の分類・整理、図書移動は女性職員を中心にしておこなったが、書架搬入に合わせてのスペースの確保と図書移動には頭を悩まされたものであった。又、休館期間中に本館・BM・各分室の蔵書点検作業も実施した。（例年は4月中旬に実施）

〔震災復旧予算〕

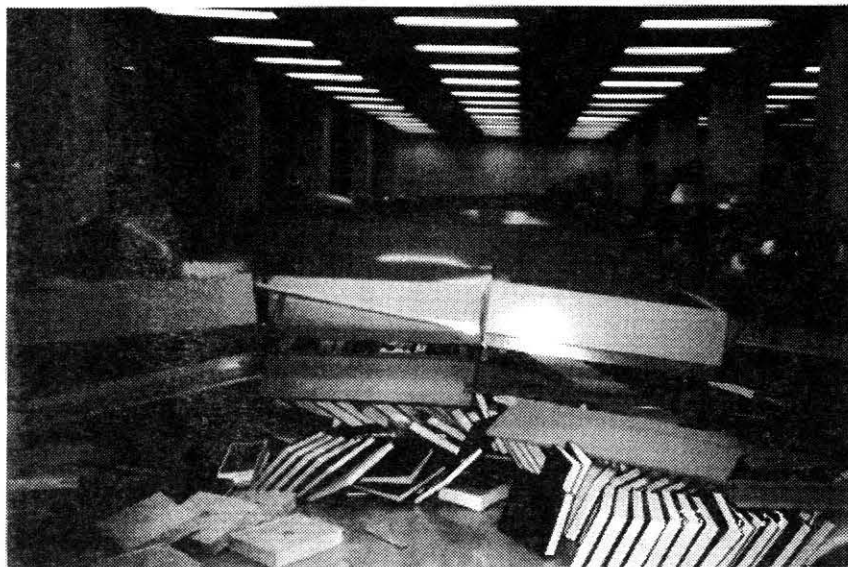
内・外壁補修工事費	13,000千円
図書・備品・諸器具費	22,000千円
木製書架(他調度備品)費	27,000千円
計	62,000千円

【その他】

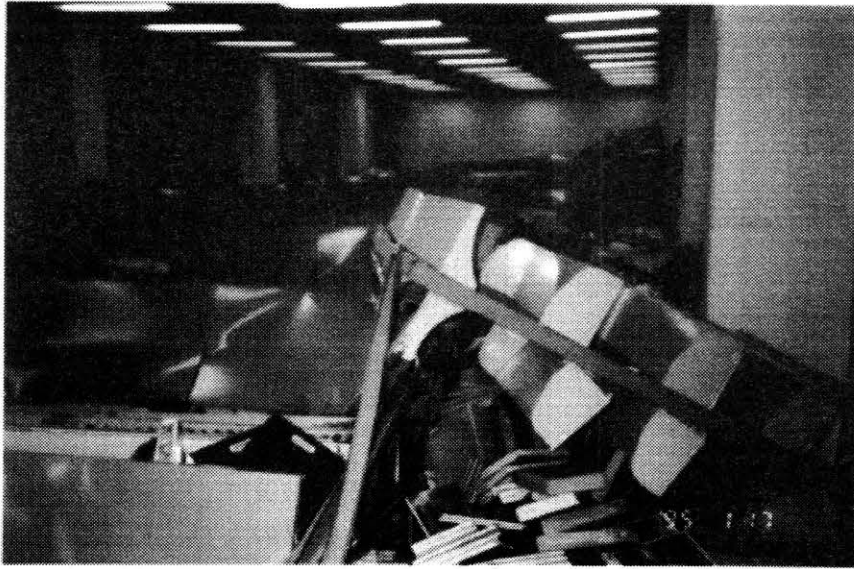
震災後、図書館業務再開のメドがたたず混乱の時ではあったが、被災により受験を目目前に控えた受験生にとって自学・自習の場を提供することが急務のため、1/23(月)より本館の3階自習室のみオープンし南分館では2/1(水)より学習室を自習室として開放した。又、業務では延滞図書の督促を5月連休明けまで中止し、家屋倒壊・震災家財整理の際に不明・紛失し返却不能となった図書については利用者の申し出により、弁償義務を免除。

特別事業としては3月27日に被災地域の子どもたちを励ますため生涯学習センター・多目的ホールで南分館主催による人形劇「ファイト!伊丹っ子」を開催し、子どもたちの心のケアに努めた。又、被災者の心情を考慮・7月始めまで他の特別な事業は自粛し、本の貸出を通して市民との対話を図り、市民の心のケアを優先した。4月に業務の再開はおこなったが、震災による市民の心の傷は大きく、本格的な図書館利用は6月中旬以降であった。

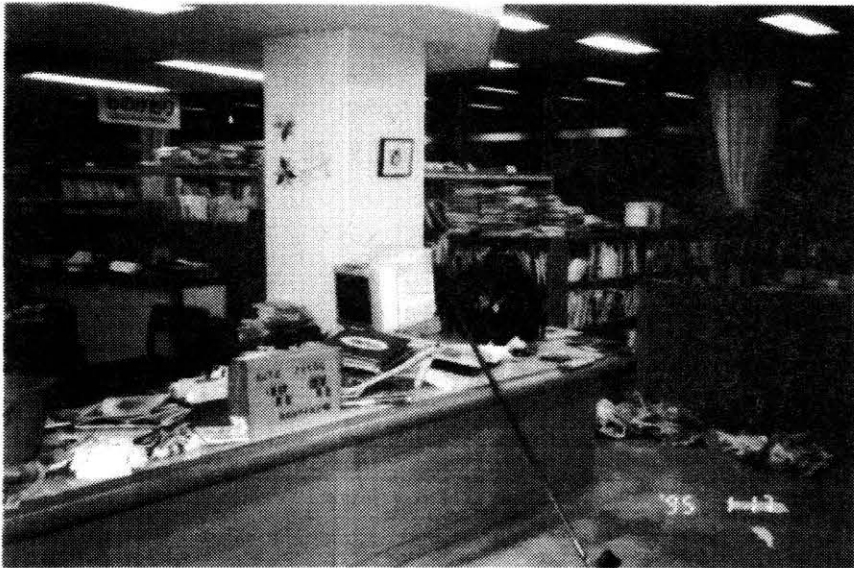
被災地への人的支援については、職員が交代で避難所に宿泊するとともに、図書館男子職員でチームを編成し災害実態調査(約1000世帯)に従事するとともにその後の再調査・相談窓口、震災対策本部への交代勤務は夏過ぎまで続いた。



▲写真(1) 一般開架室
倒壊した2階一般室のスチール
製書架。



一般読書室
倒壊した2階一般室の
スチール製書架



児童室
一階児童室の書架から落下
散乱した図書が氷損・汚損



2F閉架書庫
書架から落下した図書が散乱

伊丹市立図書館

震災の実態と復興への歩み

1/17 (火)

[5:46] 阪神・淡路大震災

[7:15] 職員2名・図書館で被害状況確認

- 玄関ブラウジング、冷水器破損により水浸し。パーテーションほか諸器具倒壊・破損。
- 児童室、ブラウジングからの浸水により図書・水浸し。書架・倒壊。
- 行政資料コーナー（1階）・ガラス破損（2枚）。書架・戸棚倒壊。
- 事務室、ロッカー・書架倒壊・器具破損。
- BM書庫、スチール書架倒壊。通用口ガラス戸2扉・破損。図書倒壊。
- 一般室、スチール書架（開架）倒壊（全壊状態）。図書倒壊。展示ケースほか備品・諸器具破損。
- 個人文庫、書架・図書倒壊。
- 2階書庫（開架）、図書倒壊。
- 2層・3層目書庫（閉架）、図書倒壊。
- 3階放送室、レコード書架倒壊。
- 3階自習室、ガラス扉破損（1枚）。
- 3階視力障害者室、書架・図書倒壊。

震災被害図書

水損図書	6742冊
汚損図書	1048冊
返却不能図書	1902冊
(計)	9692冊

【出勤者・7名】

〔復旧作業〕

1. 玄関ブラウジング・児童室への浸水防止作業。
2. 通用口の進入路を確保する。
3. ガラス破損撤去作業。
4. 事務室の一部整理作業（進入路確保のため）。
5. コンピューターは異常なし。
6. 自習室、机・整理作業完了。
7. 行政資料コーナー、一部・整理作業。
8. 一般室、文庫コーナー・目録ケースの整理作業。

〔夜間〕 泊り込み・職員1名

1 / 18 (水)

生涯学習部より復旧作業の応援。

[南分館、各・分室の被害状況確認]

伊丹分室 — 書架・図書倒壊、器具破損。

神津分室 — 書架・図書倒壊、器具破損。

池尻分室 — 書架・図書倒壊、器具破損。

南分館 — AV機器(ロッカー)倒壊により一部破損。

本館・BMは当分の間、臨時休館。

南分館は1 / 18・19、臨時休館。

各・分室は2月中旬まで臨時休館。

1 / 20 (金) 南分館、通常通り開館(ただし、2 / 4まで開館時間 9:30 ~17:00)

1 / 23 (月) 本館3階・自習室のみ開館。

1 / 31 (火)

2 / 1 (水) 生涯学習センター1階・学習室を自習室として開放。

災害実態調査
(760世帯)

2 / 15 (水) 池尻分室・業務開始。

2 / 16 (木) 伊丹分室・業務開始。

2 / 17 (金) 神津分室・業務開始。

2 / 20 (月)

一般室スチール書架、全壊のため木製書架を発注。

耐震性に配慮し、耐久性、堅牢性に優れた傾斜型の木製書架を購入。

(木製書架に床止め措置)

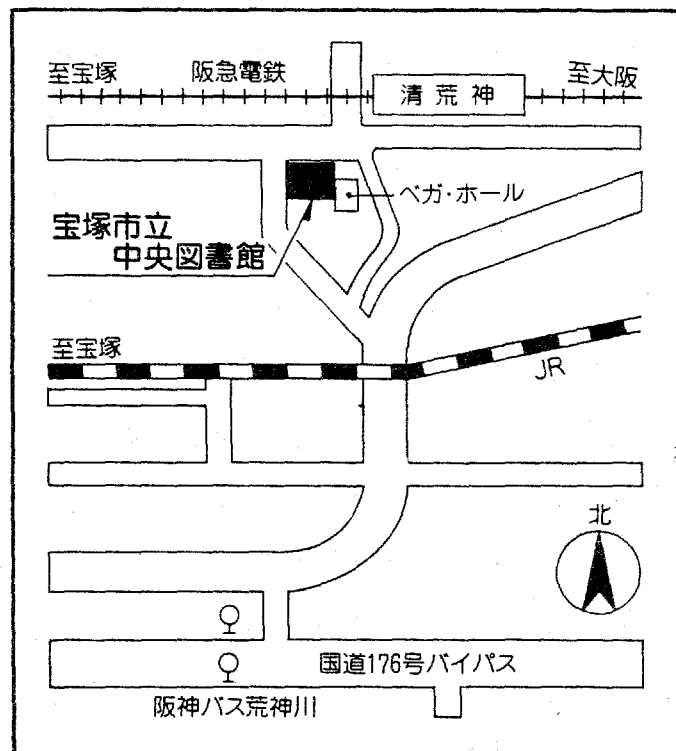
木製書架は木材の手配、手づくりであるため3月末に納入。

4 / 5 (水) 本館・業務開始。

4 / 11 (火) BM(自動車文庫)の運行開始。

宝塚市の図書館

宝塚市立中央図書館



〒665 宝塚市清荒神1-2-18

☎ 0797-84-6121

震災記録原稿

宝塚市立中央図書館

1 被害の概要

中央図書館の位置する清神荒1丁目は、震度7という激震を記録したJR宝塚駅に近接した地域であり、清荒神清澄寺に連なる参道沿いなどでは古い木造家屋も多く、一階部分が押し潰された家屋を散見する事が出来る程、市内でも被害の大きかった地域である。中央図書館においても、東側敷地タイル舗装部が約60㎡にわたって陥没したほか、一般開架室、調査相談室、第二閲覧室等殆どの箇所天井の空調吹き出し部が落下、約1/3に及ぶ書架が転倒するとともに、ほぼ全ての図書が落下し床一面に散乱していた。聖光文庫では、重心が低くかなりの重量のある展示ケースすら横転しており、横揺れとともに、縦揺れも凄かったことを伺い知ることが出来る。機械室では、30トン(2槽)の受水槽が、最大45cm移動しており、種々の給水管が破損、空調システムが打撃を受ける。また、6KVの地下埋設高圧ケーブルと街路灯地中線が断線、建物外壁に多数の亀裂が生じる等の被害が発生した。

2 避難所の開設と運営

書架の約1/3が倒れ、夥しい図書が床に散乱する中、一般開架室カウンター周辺部、児童室入口周辺部等、書架のない比較的安全と思われる場所を個々人に割当て、次第に避難者が増えるにしたがって、聖光文庫前も開放した。電気、ガス、水道が停止する中で、1月の厳寒期、天井の高い中央図書館の構造は、避難者にはつらい寒さであった。中央図書館周辺地域における関西電力の復旧工事は震災当日に完了するが、館内では地下埋設高圧線が切断されたため、暗やみと寒さ、余震の続く中で130名の避難者は不安な夜を過ごさざるを得なかった。翌18日午後10時より地下高圧線の代替に仮設高圧ケーブル設置工事が始まる。19日午前3時30分に通電、漸く明かりを取り戻すことが出来、いくばくか不安が解消されたが、個人持ち込みの電気暖房具等の使用は禁止し、暖は配給の使い捨てカイロと毛布のみに頼ることとなった。寒さのためトイレの使用が頻繁になるためか、水が出なくなった頃より館内に悪臭が漂う。使用後のペーパーを便器に放置せず、ゴミ袋に入れるように対応すべきであったが、機転がきかず特別な対応をとらなかったため

、水洗便所がつまり、うち数箇所を使用禁止にせざるを得なくなった。18日午後11時に2000リットル、ドラムカン1本の水が届く。浮遊物が混在しており、池かプールの水のようであるが、特に支障はない。各便所にバケツと杓を置き、紙はゴミ袋に捨て、使用の都度、排泄物のみを流すよう協力を要請する。19日午後2時に水道が復旧、殆どの地域が未復旧という状況の中では奇跡的ともいえる。水に関しては、早い時点でその苦勞、悩みから開放される。

2月6日には、ユニットの仮設風呂2基を開設することが出来た。完全予約制とし、避難している人々以外の方の利用も認めていくこととした。トラブルが発生しないように利用に当たっての最小限度のルールを決め、避難者自身の自主的な運営をお願いすることとした。

震災当日の食料配給は、冷えたおにぎりだけだったが、日が経つにつれ、ボーイスカウトなど様々な団体が、豚汁、かす汁、カレーなど沢山の炊き出しを実施、また、近所の市場や参道の商店、露天商の方々をはじめ、遠方にお住まいの個人の方々や企業が食料や生活物資などを持ってきて下さった。果物、お菓子類やカイロ、下着など余裕のある品目については、所定の場所に置き、いつでも、気兼ねなく自由に利用出来るように配慮した。

インスタント食品用のお湯は電気ポットで、冷えた食品の再加熱用にはカセットコンロと災害対策本部から送付されたこれらの器具が大変役立った。ガスの復旧は3月11日であり、さらにガスを熱源とする暖房設備が復旧したのは3月13日のことである。

3 職員体制と図書館活動の再開

1月17日、震災当日は火曜日であったため、正規職員15名中9名が出勤予定となっていた。このうち、通常どおり勤務時間前に出勤出来た者は、3名であり、後刻休日の職員も含めて2名が出勤してきたが、他の者は交通機関の途絶のため、出勤出来ない状況であった。この日は、館長以下、中央図書館職員、ベガ・ホール職員の計5名が宿直し、余震の警戒にあたるとともに、避難者の動向把握や外部からの照会等に対応した。翌日から、2名の宿直とし、24時間避難所業務に対応出来る体制をとった。震災二日後である19日には、神戸市で被災した1名を除き全員が出勤出来る通常の職員体制を回復することが出来た。職員は、避難所としての業務を最優先にしながら、図書館の早期再開を目指して館内の整理などに従事した。

中央図書館中山台分室では、書架から数冊の本が落下しただけという程度で分室自体の被害は皆無であったが、集中管理方式を採用しているコンピュータシステムの点検、調整のため、2月17日の再開となった。また、中央図書館本館は2月26日に再開、移動図書館も道路事情等で運行出来ない3ステーションを除いて同日から再開した。

なお、震災に伴う特別な施策として、被災者やボランティアに対する利用券発行基準の緩和並びに被災による図書の紛失、破損への弁償の免除を決定した。

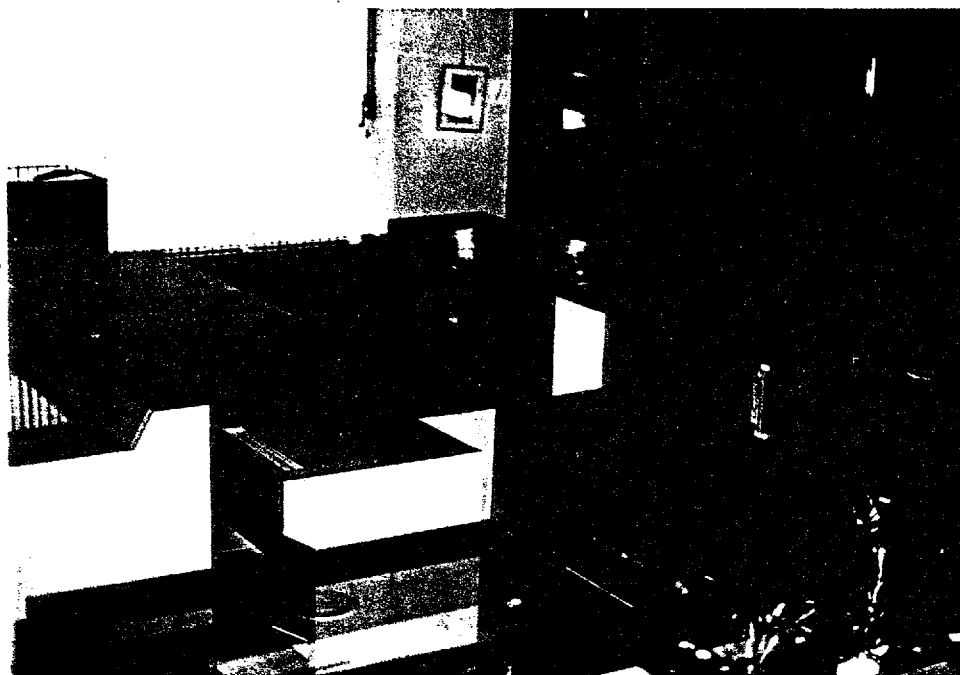
中央図書館の再開に先立ち、避難している方々には併設のペガホール会議室に移動頂いた。図書館再開後も避難所としての業務を最優先に対応した。避難所として、中央図書館がその役割を終えたのは新緑が目に眩しい5月7日のことである。



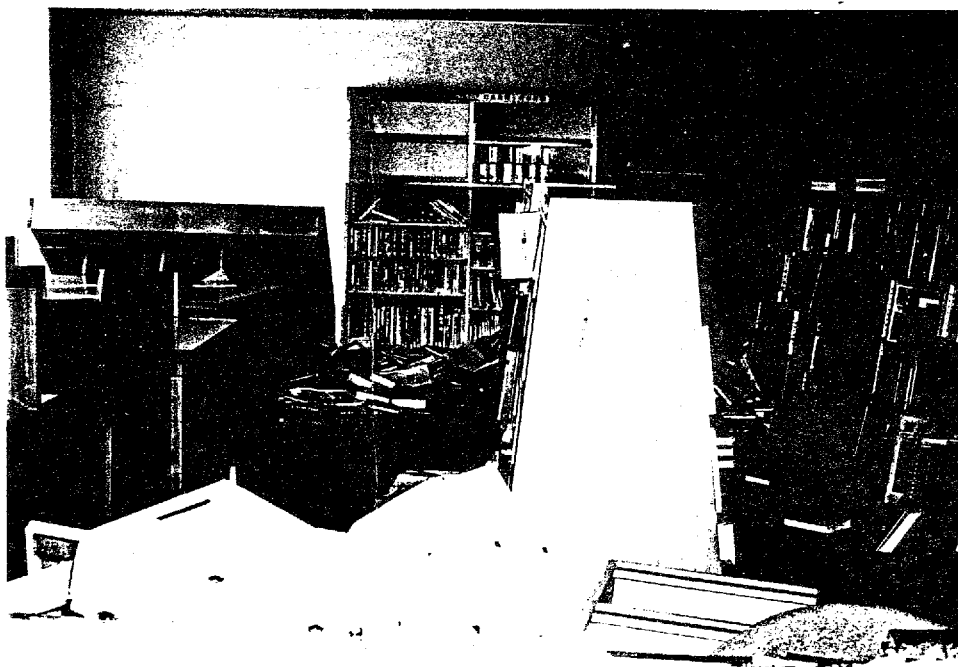
▲ 兒童室



B M 書架

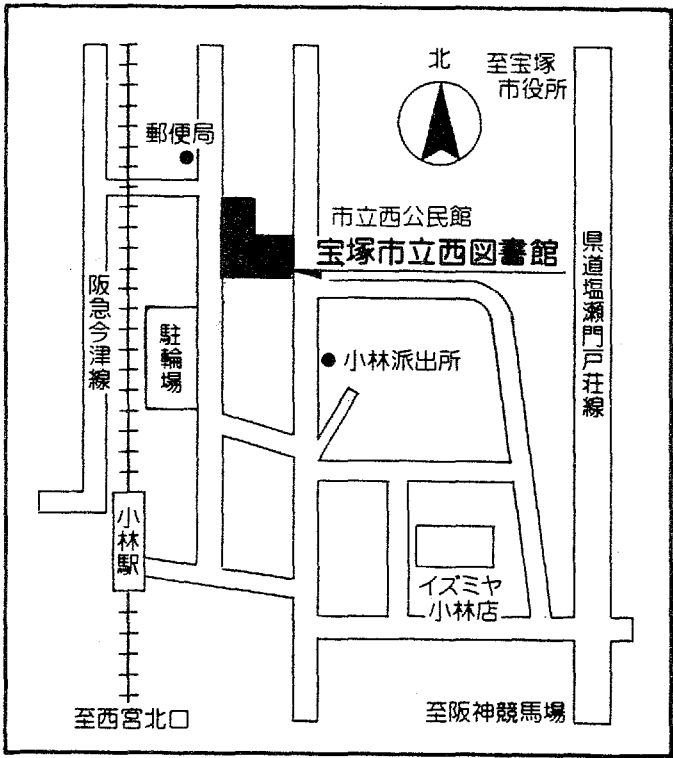


聖光文庫展示ケース



調査相談室

宝塚市立西図書館



〒665 宝塚市小林2-7-30

☎ 0797-77-1222

まず、被害状況から述べると、1月17日の震災日当日、出勤できたのは、正規職員9名中わずか3名であった。被害状況の調査を最優先し、3名で手分けして、外部の建物の損傷を調べた。

建物本体は傾きやガラスの割れ、大きなひび割れな等大きな外見上の被害はなかった。しかし、2階の一般開架コーナーの中に一歩足を踏み入れると地震の大きさを物語るように、書架が転倒し書籍が棚から落下し通路をふさぐ状態になっていた。受付カウンターの方に目をやると5台のコンピューター端末機がずれたり横になったり、そして受付カウンター後のCD棚では壁に密着していたにもかかわらず奥行きが浅いためかCDが床に落下しケースが壊れたりしていた。

一方、1階事務室の方ではロッカー1台が床に転がり修理が不可能なぐらいに曲がり事務机なども数十センチずれて机の上の書類や書籍が散乱した状態であった。廊下や閉架書庫は床や壁に細かい亀裂が幾重にも走り、その亀裂が壁紙の上から分かるような状態であった。

被害は下記のとおり

1階部分

スタッフラウンジ水漏れ	1か所
ロッカー転倒損壊	1台
廊下等の壁のひび割れ	13か所

2階部分

書架転倒	6台
柱のへこみ	2か所
防煙ガラスの割れ	2か所
受付カウンターサインずれ	1か所

外構部分

土留擁壁等のひび割れ	6か所
植栽柵のひび割れ	5か所
植栽柵の破損	1か所
縁石化粧ブロックの破損	1か所
汚水、配水管の水漏れ	1か所

次に救援活動について述べると、館の周囲には古い木造の文化住宅が多いため全壊等の被害がかなりでていた。そのため当日午前10時頃から多数の市民が西公民館、当館に避難してきたが、どちらも避難場所に指定されておらず、徒歩で3分ほどにある良元小学校に避難するよう誘導した。午後からは災害対策本部の指示により避難者の受入を始めた。電気は一時停電していたが午後までには復旧した。ガス・水道はともに止まったままであった。水道の復旧は1月19日、ガスは2月3日になってからである。避難者は夕方から徐々に増えはじめ震災日当日は約100名。小さな子どもを連れた若い夫婦や余震におびえるお年寄りなど顔の表情も厳しく、当分再開は無理なことを実感した。

西公民館、当館ともすべての業務をストップし、各施設の避難場所については各施設の職員で対応との災害対策本部の指示により、とりあえず西公民館男子職員3名、当館男子職員3名の計6名で泊まりを入れて24時間避難者のお世話をする態勢をとった。17日当日は西公民館1名、当館1名が宿泊した。(市の災害対策本部は午前6時に設置。宝塚市の場合、災害対策本部が設置された段階で市の組織のすべては災害対策本部の指揮下に入る)

18日に入り毛布やおむすび等の物資や食料品が届きはじめた。当館では余震のため書架等が転倒する可能性もあり、西公民館を避難場所に、当館は物資や食料品の置場にすることにして、朝・昼・夕食の配膳等のお世話は西公民館、当館の職員全員があたることになった。18日は正規職員9名中3名のみ出勤、他の職員は交通途絶のため出勤できず、全員がそろったのはJR宝塚線、阪急宝塚線が復旧した後の20日であった。また1月20日からは医師の巡回も始まり、2階のブラウジングコーナーは仮設の応急診療所となった。

2月に入ると民間ボランティアの応援もあったが避難者が600名をかぞえ、西公民館の部屋に入りきれず、通路まであふれた。以降2月17日の再開の日まで職員全員が食事や衣料の配布に当たった。

次に復旧事業について述べると、当館の再開については破損した書架の修繕が大切なため、先ず1月17日の震災日当日書架納入業者に連絡。翌日の18日には業者が来館し、書架の被害状況を調査するとともに、倒れた書架を職員も協力して立て直した。幸い木製書架でもあり、軽微な損傷で済んだため、2・3日でほぼ復元できるとの回答を得、再開日と調整しながら修繕することとなった。また、2月に入ると市民の間からも再開を望む問い合わせが入りはじめ、職員間でも再開すべきか、このまま避難者のお世話をすべきか議論の分かれるところになった。同一敷地内の複合施設である西公民館には明日の生活も分からない約600名の避難者が現に生活している実態を考えると悩んだところであるが

「災害」から「復興」へ、再開がかえって被害者を勇気づけるのではとの結論に達した。

再開するにはどういった問題があるのか、また、どうすれば再開できるのか、内部及び西公民館とも十分調整、確認をとりながら1か月後の2月17日に再開することになった

具体的には視聴覚コーナーや児童コーナーなどの物資は西公民館の喫茶室へ、ブラウジングコーナーの応急診療所は対面朗読室へ移動、2月13日に再開の新聞発表。そして職員は返却本や書架整理に努め、並行して業者は書架修繕を進めた。2月15日には書架修繕を完了した。一方、排水管損傷による1階スタッフラウンジの水漏れは2月14日には応急修理を完了。同日、再開案内のポスターを近くの小学校、幼稚園等に配布し来館を呼びかけた。2月15日には教育長が視察のため来館。2月17日、中央図書館の職員も応援にかけつけ、午前10時通常どおりオープン。NHKが取材のため来館。当日の貸出利用者533名、貸出冊数1,819冊、返却冊数1,644冊で好調な出足となった。

再開日以降については、西公民館が避難場所として閉鎖される5月21日まで事務職は西公民館の応援を、司書職は本来業務に就くことになったが、必要な限りの応援態勢は随時とることになった。

取りやめになった、1月の事業

LD上映会	1月22日	ウルトラマン
	1月29日	アメリカ物語
おはなしかい	1月28日	なぞなぞのすきな女の子 ほか

再開後実施した事業

LD上映会	2月18日	ドラえもん のび太の海底鬼岩城	入場者30人
	2月19日	それいけアンパンマン みなみの海をすくえ!	入場者16人
	2月25日	ドラえもん のび太の大魔境	入場者32人
	2月26日	それいけアンパンマン ばいきんまんの逆襲	入場者14人

なお、廊下等のひび割れ、防煙ガラスの割れ、植栽柵の破損などについては災害復旧事業として国の補助金を受け、平成7年9月8日に修繕工事に着手し修繕工事が完了したのは平成7年11月30日であった。

1月17日

火

午前5時46分 阪神 淡路大震災発生
午前6時 市役所本庁に災害対策本部が設置される
午前9時前 西図書館正規職員9名中2名が、10時過ぎ1名が出勤
とりあえず、3名で建物の損傷の程度を調査
外部—ガラスの割れ、建物の損壊等大きな被害なし
内部—窓際の書架以外ほとんど転倒。書籍散乱、棚からCDも落ち、コンピュータ端末機はカウンターからずれ落下。事務室ではロッカーが転倒、机もかなり移動

(被害状況)

書架6台転倒 ロッカー1台損壊 スタッフラウンジ水漏れ
擁壁ひび割れ6カ所 植栽柵ひび割れ5カ所 植栽柵破損1カ所
緑石・化粧ブロック損傷1カ所 壁ひび割れ13カ所 床ひび割れ
3カ所 排水管水漏れ1カ所 書架の転倒による柱のへこみ2カ
所 防煙ガラス割れ2カ所 カウンター上部サインずれ1カ所

書架を立てなおすのが先決のため、業者に連絡。明日、業者来館の確約をとる。

午前10時頃から、避難者が来館。西公民館、西図書館とも避難場所に指定されていないため、近くの避難場所市立良元小学校へ避難するよう誘導。午後から災害対策本部の指示により避難者を受け入れ始める。

電気は一時停電していたが、午後前には復旧。ガス・水道は不可。全ての業務はストップ。出先の避難者については、出先の職員で対応。

西公民館男子職員3名、西図書館男子職員3名で泊まりの態勢を組む。避難者数約100名

18日

水

市内61カ所の避難所に計13,700人が避難。
西公民館は避難場所に、西図書館は物資置場（ブラウジングコーナー、児童コーナー、視聴覚コーナー）。西図書館の職員は3名出勤
他の職員は、交通途絶のため出勤できず

業者が約6時間かけて来館、職員と業者で書架を立てなおす。書架の下敷きになった書籍多数。木製書架の損傷は軽微。早速修繕依頼

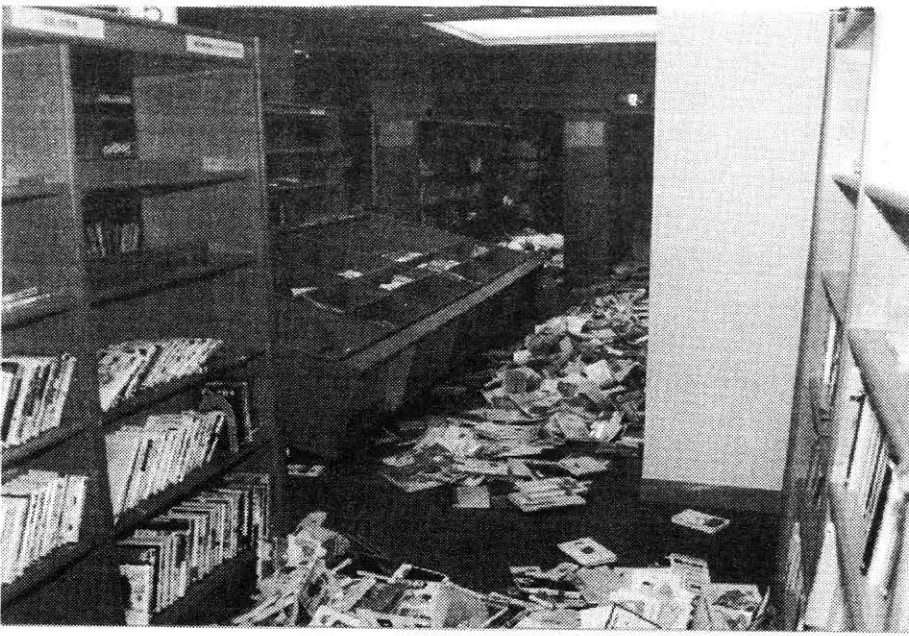
避難者が増え、公民館の各室のみでなく廊下や踊り場まで人であふれる

1月19日	木	J R宝塚線、阪急宝塚線が開通。水道も復旧。 西図書館の職員全員が夕食の配膳、物資の配布等避難者のお世話を 西図書館は当分の間休館。
20日	金	西図書館の職員全員がほぼそろそろ。医師の巡回が始まり、ブラウジ ングコーナーが仮設の応急診療所に。さまざまな物資が多数搬入。 土・日曜日については、1/2態勢をとる。
21日	土	小学校20校、中学校11校開校、幼稚園11園開園。市役所本庁にボラ ンティア本部も設置される
22日	日	441戸の1次仮設住宅入居者を募集する
23日	月	西公民館の避難者が588名に、通路まで人であふれる。西図書館も 避難所に開放する案もでたが、書架が余震で倒れることも考えられ 避難場所でなく物資置場とする。夕食の配膳も一時に約600名はむ りて、階ごとに配布。西公民館受付カウンター前に机を並べ、弁当 や果物等を各自が取って持っていきやり方とする。それでも整理す る職員を含めて7～8人が必要。
25日	水	書架修繕のため業者来館。市役所本庁に特設浴場開設。市建物応急 危険度調査開始。午後11時16分ごろM4.7の余震あり、避難者の 不安がつのる
26日	木	被災者証明書発行を開始
2月1日	水	市復興本部を設置
3日	金	武庫川河川敷に自衛隊が仮設の風呂を設置、避難者にも勧める。西 公民館、西図書館ともガスが復旧。これで水道、電気、ガスとも全 て復旧し、ライフラインが確保できる。また、民間ボランティアの 応援もあり、泊込みで避難者を援助
6日	月	1次仮設住宅入居が始まる。避難者のなかにも当選者がいたが、足 が不自由のため当分の間避難所生活をここで送りたいとのこと。西 公民館で4階シャワールームを開放。
7日	火	自衛隊による家屋の解体が始まる
10日	金	エレベータの点検業者が来館、異常なし。
		2月に入って、西図書館の再開を望む声が多く多くの市民から寄せら れるようになる。内部においても、いつ再開するか調整を図る。

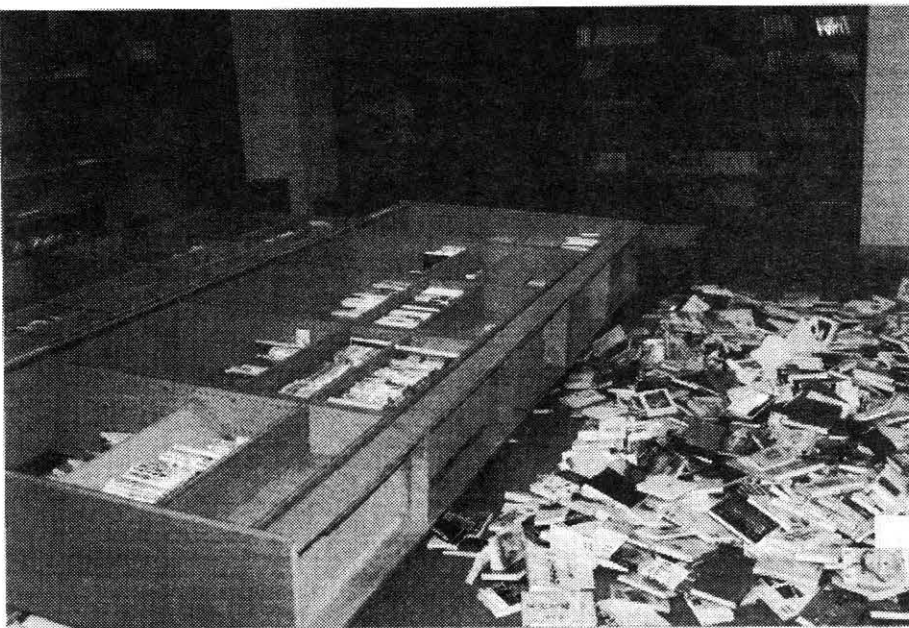
物資置場や職員全員が避難者活動に従事している現状に疑問の声も。館長以下再開に向けての努力が図られる。視聴覚コーナー、ブラウジングコーナー、児童コーナーの物資は西公民館の喫茶室へ、応急の仮設診療所はとりあえず1階の集会室へ移動して何とか再開できないか、西公民館と調整する。震災後の2月17日を再開日とすることがほぼ決まる。

2月13日	月	2月17日(金)午前10時再開で記者発表。 仮設の診療所は、集会室から2階の対面朗読室へ。職員は返却本の受け入れや書架整理
14日	火	再開案内のポスターを近くの小・中学校、幼稚園、保育所に配布。視聴覚機器を最終調整。スタッフルウンジの水漏れの応急修理を終える。
15日	水	書架を修繕。物資は全て西公民館喫茶室へ移動させる。医薬品等は応急の仮設診療所とする対面朗読室へ移動
17日	金	午前10時再開。NHK、毎日新聞取材。来館者多数。司書本来業務へ。事務職西公民館の応援へ。
18日	土	建設・厚生大臣が来宝、被災地を視察
19日	日	西公民館の避難者222名。
20日	月	古里震災担当相来宝、被災地視察。
3月1日	水	健康センター、中山台コミュニティセンター、教育総合センター女性センター、老人福祉センターが再開
5日	日	市民開館で合同慰霊祭。皇太子ご夫妻献花、避難所慰問。
6日	月	2次仮設住宅入居開始。西図書館の会所、配水管を修繕
8日	水	スタッフルウンジ水漏れ修繕で天井張り替え
13日	月	市立13中学校で卒業式
23日	木	市立23小学校で卒業式
25日	土	市内でガス全面復旧

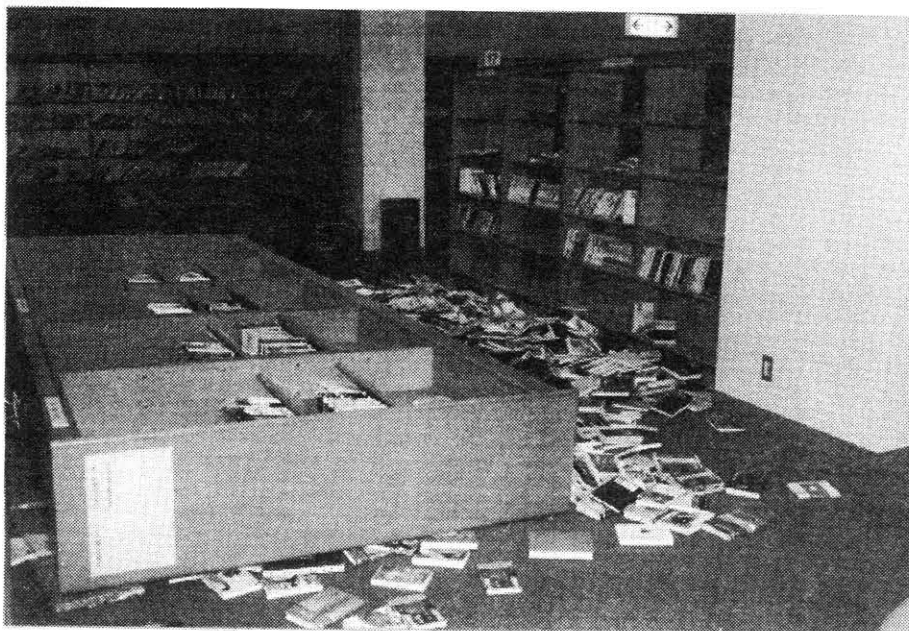
31日	金	西公民館避難者126人
4月1日	土	小浜宿資料館、少年自然の家、ソリオホール、ベガ・ホール、市民開館、同分館南口会館、各デイサービスセンターが再開
15日	土	自衛隊延べ10,570人を動員、家屋解体を終了
17日	月	市5月21日でもって全避難所の閉鎖を発表
4月20日	木	西公民館避難者91名
5月10日	水	文部省の災害現地査定
21日	日	西公民館避難者全員退所、避難所閉鎖



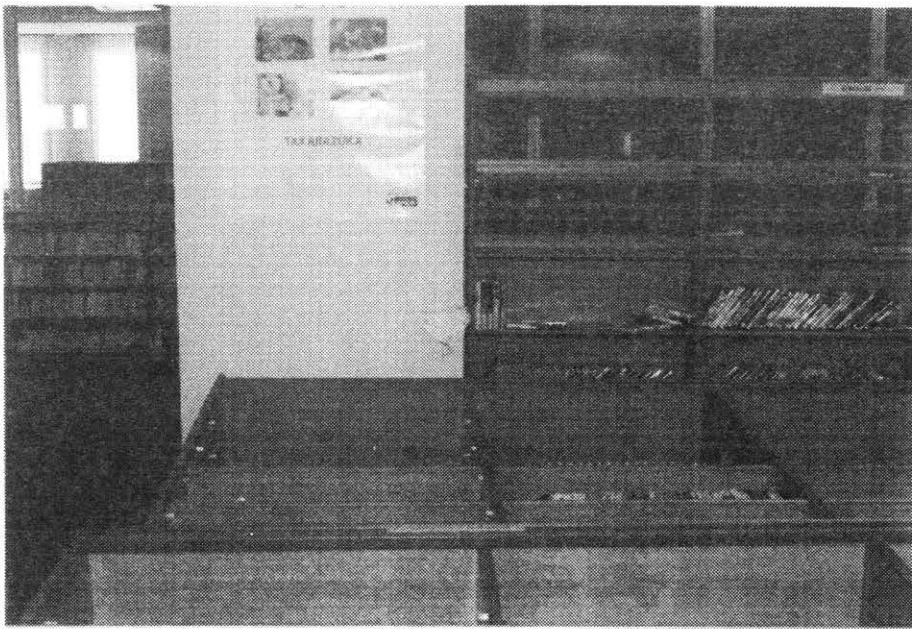
一般開架コーナー



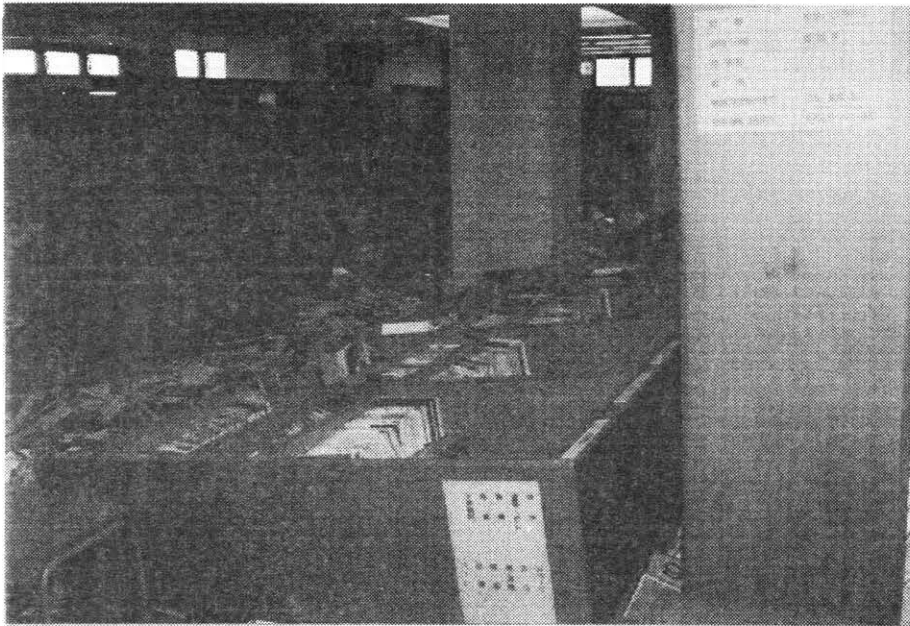
一般開架コーナー



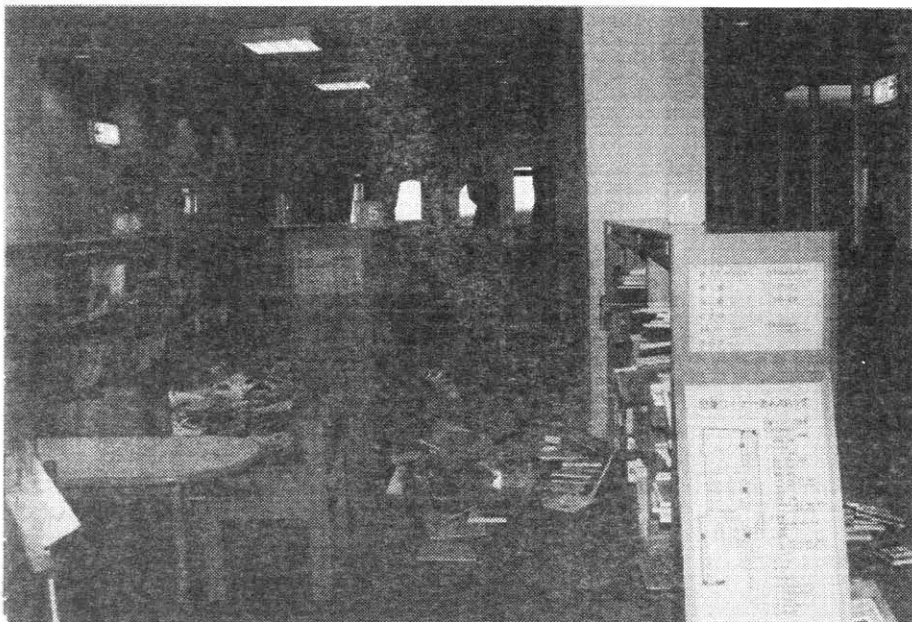
一般開架コーナー



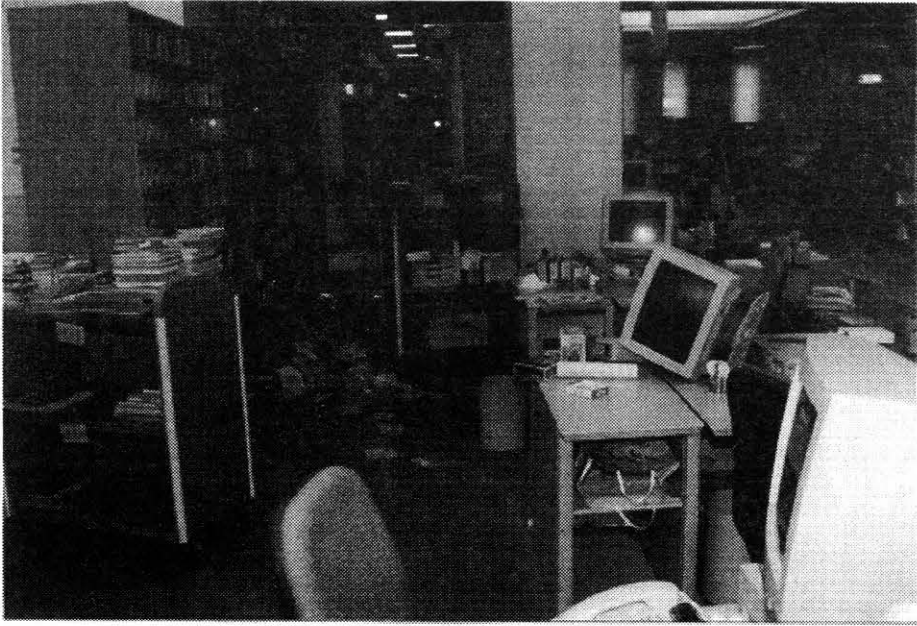
2階一般開架コーナー



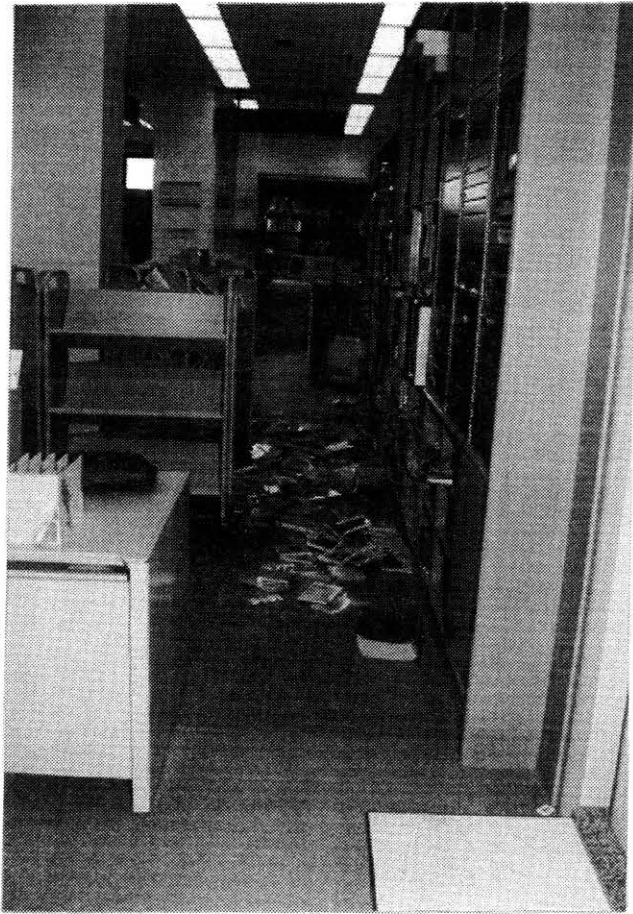
2階一般開架コーナー



2階 児童室



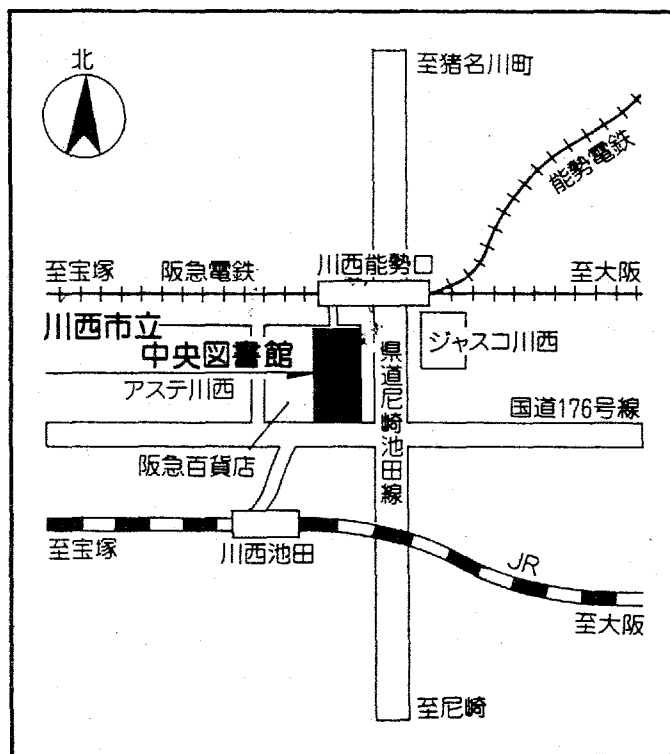
2階受付カウンター付近



2階受付カウンター付近

川西市の図書館

川西市立中央図書館



〒666 川西市栄町25-1 (アステ川西内)

☎ 0727-55-2424

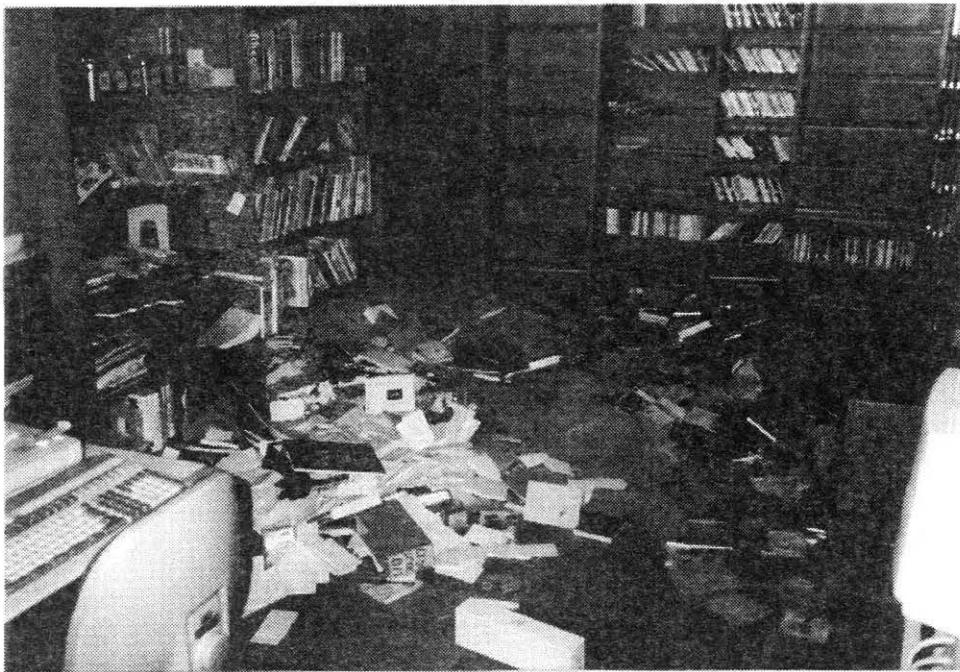
置	の	ほ	と	ん	ど	が	転	落	し	た	が	、	幸	い	破	損	は
免	れ	た	。	ま	た	、	カ	ウ	ン	タ	ー	後	方	の	壁	面	書
架	の	ビ	デ	オ	、	C	D	及	び	戸	棚	の	パ	ン	フ	レ	ッ
ト	類	の	ほ	と	ん	ど	が	落	下	し	散	乱	し	た	。		
設	備	面	で	は	、	防	煙	た	れ	壁	ガ	ラ	ス	が	破	損	
・	落	下	、	ス	ブ	リ	ン	ク	ラ	ー	ヘ	ッ	ド	及	び	ヘ	ッ
ド	カ	バ	ー	の	損	壊	・	落	下	、	吹	き	抜	け	天	井	照
明	器	具	及	び	天	井	見	切	り	の	歪	曲	破	損	等	の	被
害	が	あ	っ	た	。												
(2)	書	架	等	の	被	害											
本	館	は	4	段	低	書	架	(傾	斜	型)	を	主	体	と	
し	て	い	る	た	め	、	転	倒	は	一	切	な	か	っ	た	。	ま
た	、	6	段	高	書	架	(直	立	型)	の	う	ち	、	壁	面
に	ビ	ス	止	め	さ	れ	た	単	式	書	架	は	、	転	倒	し	な
か	っ	た	が	、	5	階	の	調	査	相	談	室	に	南	北	に	配
置	さ	れ	て	い	る	複	式	書	架	は	、	転	倒	し	な	か	っ
た	が	、	傾	い	た	り	、	位	置	が	ず	れ	た	り	し	て	い
た	。	な	お	、	直	立	型	雑	誌	架	は	、	背	面	を	固	定
せ	ず	設	置	し	て	い	た	の	で	、	8	台	中	3	台	が	前
倒	し	と	な	り	、	前	面	に	取	り	付	け	て	あ	る	ア	ク

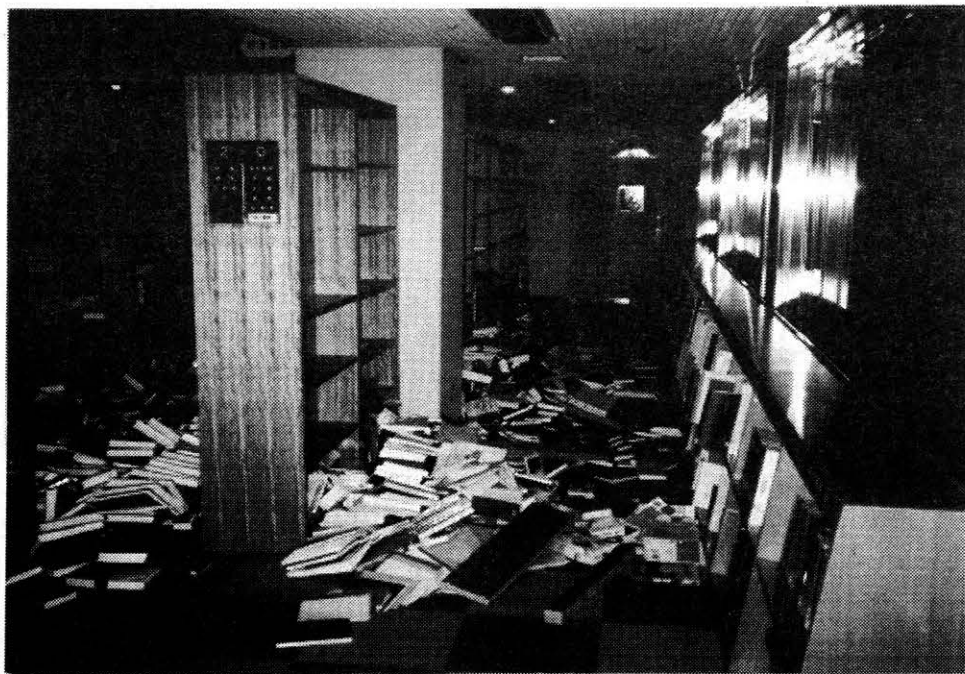
	リ	ル	扉	4	5	枚	が	破	損	す	る	等	の	被	害	を	被	っ
	た	。																
(3)	閉	架	書	庫														
	本	館	の	閉	架	書	庫	は	、	電	動	集	密	書	架	を	導	
	入	し	て	い	る	が	、	振	動	に	よ	り	多	数	の	図	書	・
	資	料	が	落	下	・	散	乱	す	る	と	と	も	に	、	転	倒	防
	止	金	具	の	破	損	、	電	動	台	車	の	歪	み	及	び	ず	れ
	に	よ	り	操	作	が	不	能	と	な	っ	た	。					
(4)	設	備																
	①	防	煙	た	れ	壁	ガ	ラ	ス									
		館	内	に	設	置	さ	れ	て	い	る	防	煙	た	れ	壁	ガ	
		ラ	ス	(網	入	り)	5	カ	所	の	内	、	3	カ	所	の
		部	分	が	破	損	し	落	下	し	た	。						
	②	ス	プ	リ	ン	ク	ラ	ー										
	(ア)	階	段	下	で	1	カ	所	ス	プ	リ	ン	ク	ラ	ー	へ		
		ッ	ド	が	破	損	し	た	が	、	水	の	漏	出	は	な	か	
		っ	た	。														
	(イ)	天	井	取	り	付	け	の	ス	プ	リ	ン	ク	ラ	ー	の		
		ヘ	ッ	ド	カ	バ	ー	が	1	0	カ	所	本	体	か	ら	は	
		ず	れ	、	落	下	し	た	。									

	か	ら	転	落	し	た	り	し	た	が	、	特	段	の	損	傷	は	な
	か	っ	た	。														
4	職	員	の	動	向	等	に	つ	い	て								
	当	日	午	前	8	時	3	0	分	に	職	員	1	名	が	職	場	に
	到	着	し	、	転	倒	し	て	い	た	コ	ン	ピ	ユ	ー	タ	ー	表
	装	置	を	机	上	に	戻	す	等	整	理	を	行	う	内	、	順	次
	遠	方	の	職	員	も	出	勤	し	て	き	た	。					
	被	害	状	況	の	報	告	は	、	電	話	回	線	が	不	通	の	た
	め	、	徒	歩	で	本	庁	(教	育	委	員	会)	へ	行	き	報
	し	た	。	そ	の	後	職	員	全	員	で	1	日	も	早	い	開	館
	目	指	し	図	書	等	の	整	理	・	復	旧	に	努	め	た	た	め
	1	月	2	7	日	か	ら	本	館	業	務	及	び	移	動	図	書	館
	業	務	と	も	再	開	す	る	こ	と	が	で	き	た	。	し	か	し
	テ	オ	映	写	会	及	び	C	D	コ	ン	サ	ー	ト	に	つ	い	て
	関	連	機	器	の	修	理	・	調	整	を	す	ま	せ	た	4	月	か
	の	再	開	と	な	っ	た	。										
	被	災	地	へ	の	人	的	支	援	に	つ	い	て	は	、	職	員	が
	交	替	で	避	難	所	に	宿	泊	す	る	と	と	も	に	、	一	部
	避	難	所	に	は	ボ	ラ	ン	テ	ィ	ア	と	一	緒	に	、	子	供
	対	し	て	紙	芝	居	や	ペ	ー	プ	サ	ー	ト	等	を	行	っ	



一般開架コーナー

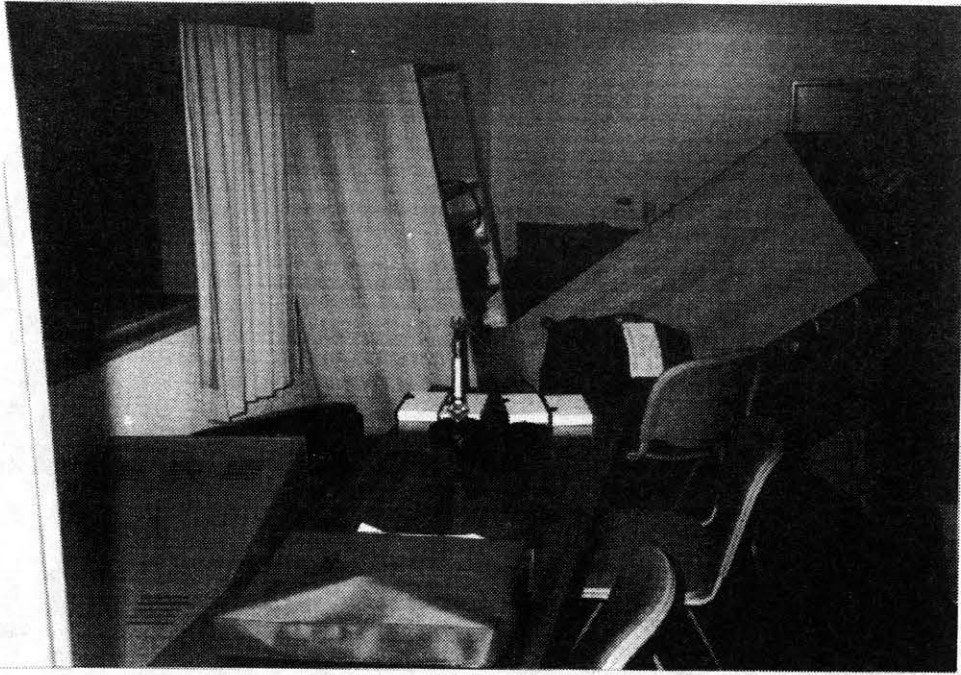




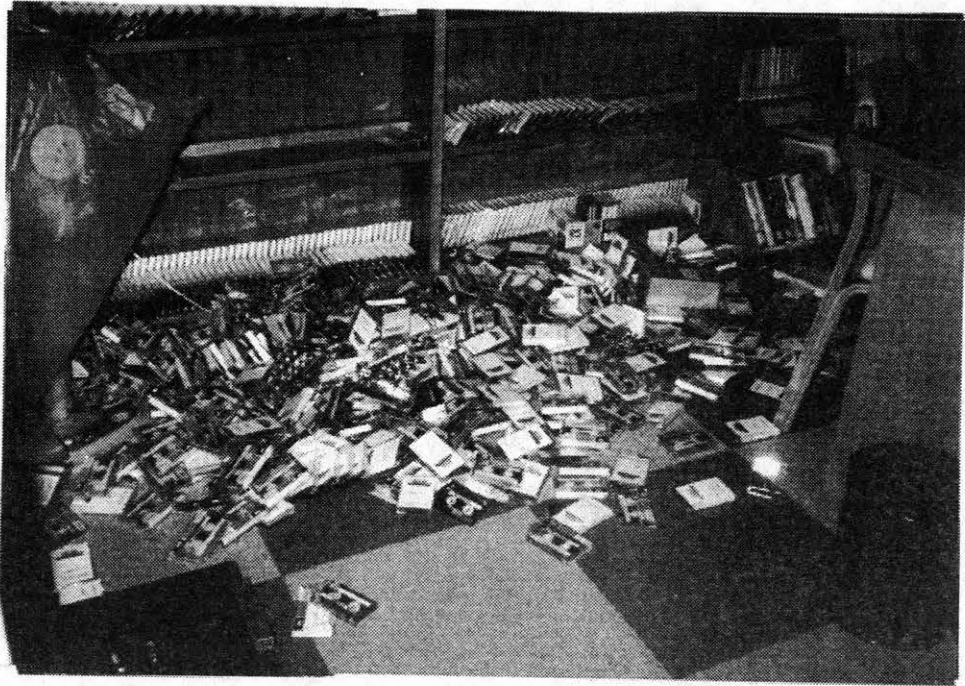
一般開架コーナー



移動書架



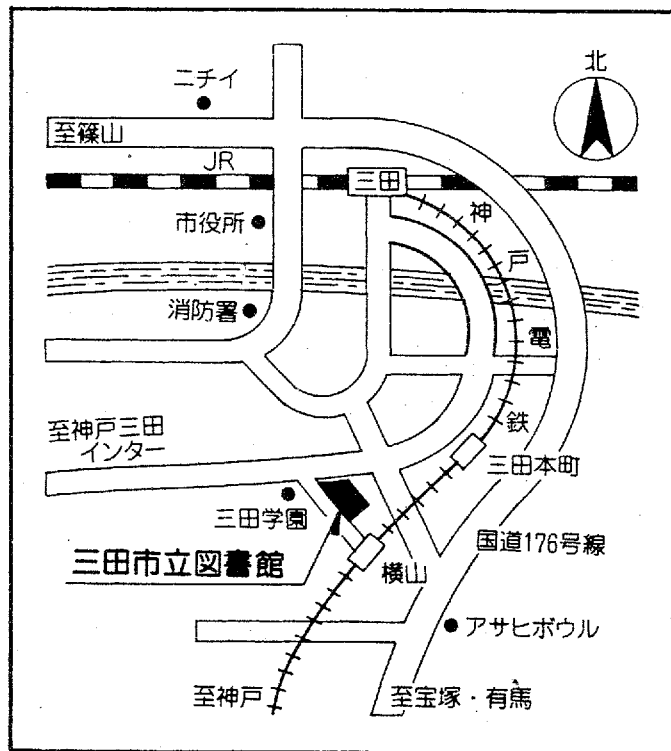
CD・ビデオコーナー



CD・ビデオコーナー

三田市の図書館

三田市立図書館



〒669-13 三田市南が丘2丁目11-57

☎ 0795-62-7300

1月17日未明、兵庫県南部地域を襲った大地震は阪神・淡路地域を中心に人家の被害にかぎっても、死者5千5百人、家屋の被害20万戸、被災者31万人という甚大な被害をもたらした。

三田市災害対策本部の被害状況調査（2月15日現在）によれば、比較的被害の少なかった本市においても軽傷者19人、全・半壊はなかったものの一部損壊家屋1,278戸を数える被害を受けた。

市立図書館でも下記のような被害を受けたが、たまたま、当日が休館日であったため、市内在住の職員を中心に復旧にあたり、地震当日の午後には大部分がかたづき、翌日から平常どおり開館することができた。ただ、移動図書館については、地震の影響により一部の職員が出勤できず、1月21日～31日の間（実質5日間）止むなく運行を中止した。

1. 図書館の被害状況

(1) 建物

開架室天井のルーバーが一部落下したり、垂れ下がったりした以外、特に目立った被害はなかった。ただ、特別展示室の収蔵庫や閉架書庫の内壁、倉庫の床等に細かなクラックが見られた。外壁面や窓等のガラスには割れやヒビ等の損傷はなかった。

(2) 設備

機械室、電気室の空調・衛生設備や電気設備、屋外の受水槽には特に損傷はなかった。

(3) 書架

開架室の木製書架、移動図書館用のスチール製書架、書庫の移動式集密書架などには特に損傷はなく、位置ずれもなかった。

(4) 資料

館内では、一階移動図書館用のスチール書架に配架していた本が7割程度落下し、事務室内の木製書架に配架していたコンパクトディスクの一部も落下し散乱した。また、一般開架室の木製書架の天板上にブックエンドで挟んで置いていた本の一部も落下した。しかし、いずれの場合も資料に損傷はなかった。一方、貸出中の本（1冊）・コンパクトディスク（1点）・複製画（4点）にも落下や倒壊した家具の下敷き等で損傷したものがあつた。

(5) コンピュータシステム

中央処理装置・主記憶装置・端末機等のハードディスクやデータ、ソフトウェアには被害はなかった。

2. 職員の被害状況

被災地域に居住する職員が伊丹市1名、西宮市1名、神戸市2名の計4名おり、家屋に被害を受けた。幸い家族を含め死傷者はなかったが、交通機関が遮断されたため、出勤できなかった職員が5名いた。震災から半年以上たった今も仮設住宅から通勤している職員が1名いる。

出勤できなかった日数	* 1日（堺市） …… 1名	5日（神戸市北区） …… 1名
	2日（伊丹市） …… 1名	16日（神戸市長田区） …… 1名
	3日（西宮市） …… 1名	

*この1名はたまたま堺市の実家に帰省していたため出勤できなかった

3. 被災地への支援活動

(1) 本の寄贈

市民からの寄贈図書 1,589冊（一般書1,429冊、児童書160冊）を県立図書館に贈る（2月17日）

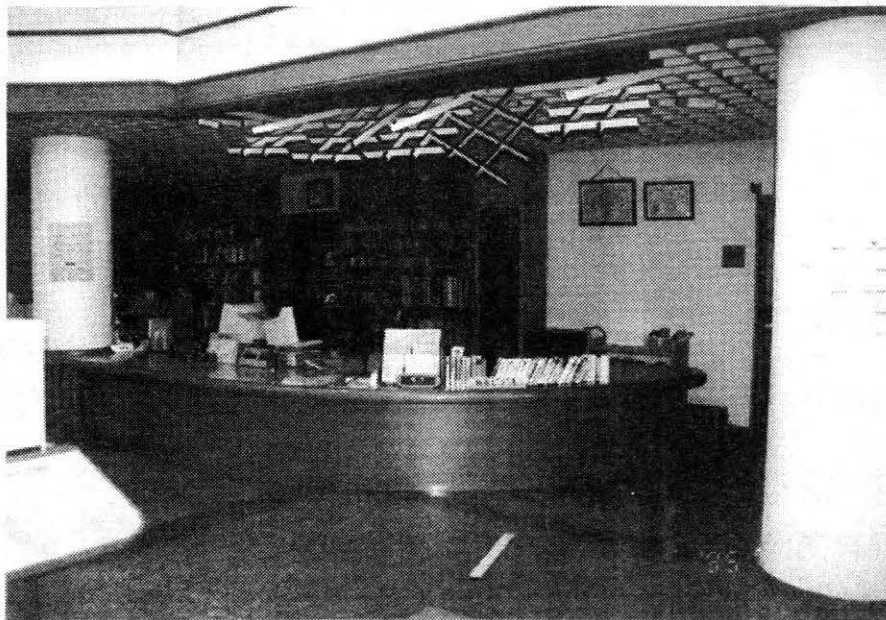
(2) 義援金

(財)毎日新聞大阪社会事業団が主催している“阪神大震災 被災地区に児童書を贈る運動”に協力するため、市民に募金をよびかけ、義援金（15,370円）を贈る（4月10日）。

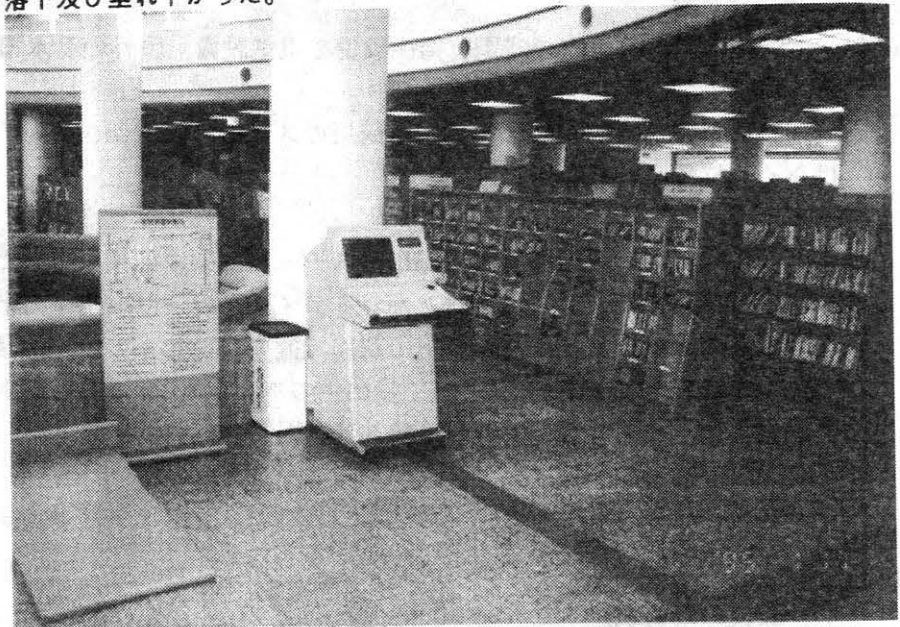
(3) 職員の派遣

市災害対策本部の支援活動の一環として、宝塚市に職員1名を派遣（2月23日、3月20日）。

各室の被害状況

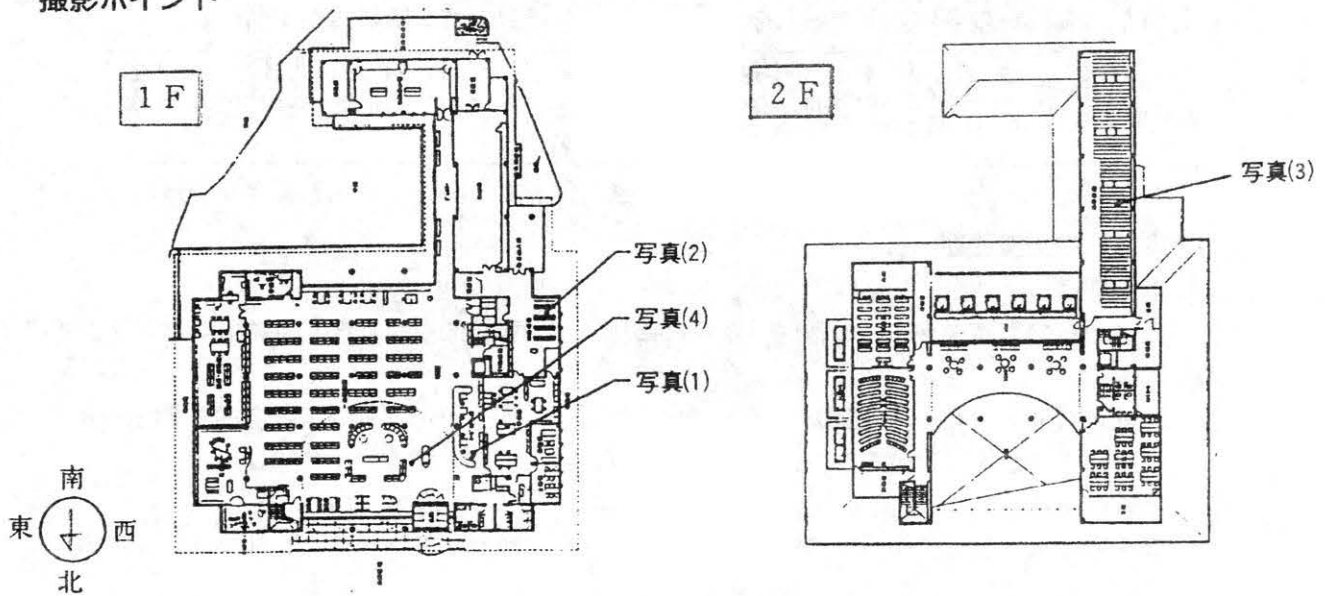


△写真(1) 一般開架室 (受付カウンター)
天井のルーバーの一部が落下及び垂れ下がった。



△写真(4) 一般開架室
スチール製のかかなり重く、大きい
(180cm×60cm)館内案内板(左下)が転倒した。

撮影ポイント





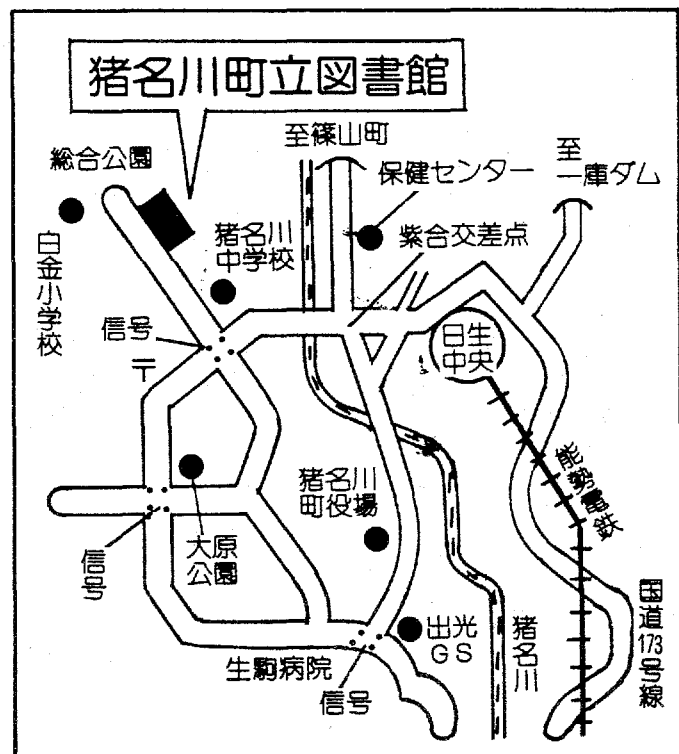
△写真(2)
移動図書館用スチール書架
書架は倒れていなかったが配架し
ていた図書が落下し、散乱していた。



△写真(3) 2F閉架書庫
書架自体は安定しており、図書の
落下は比較的少ない

猪名川町の図書館

猪名川町立図書館



〒666-02 猪名川町白金1丁目74-16

☎ 0727-66-3238

1. 被害状況について

平成7年1月17日の大震災では、図書館新館建設基礎工事の段階であったため被害はなかった。

2. 建設概要について

1. 構造 鉄筋コンクリート造り2階建て
2. 建築延面積 3,759.41㎡
3. 経過 平成6年8月1日 工事着工
平成7年1月17日 阪神淡路大震災
平成7年7月31日 竣工
平成8年3月23日 開館

図書館新館

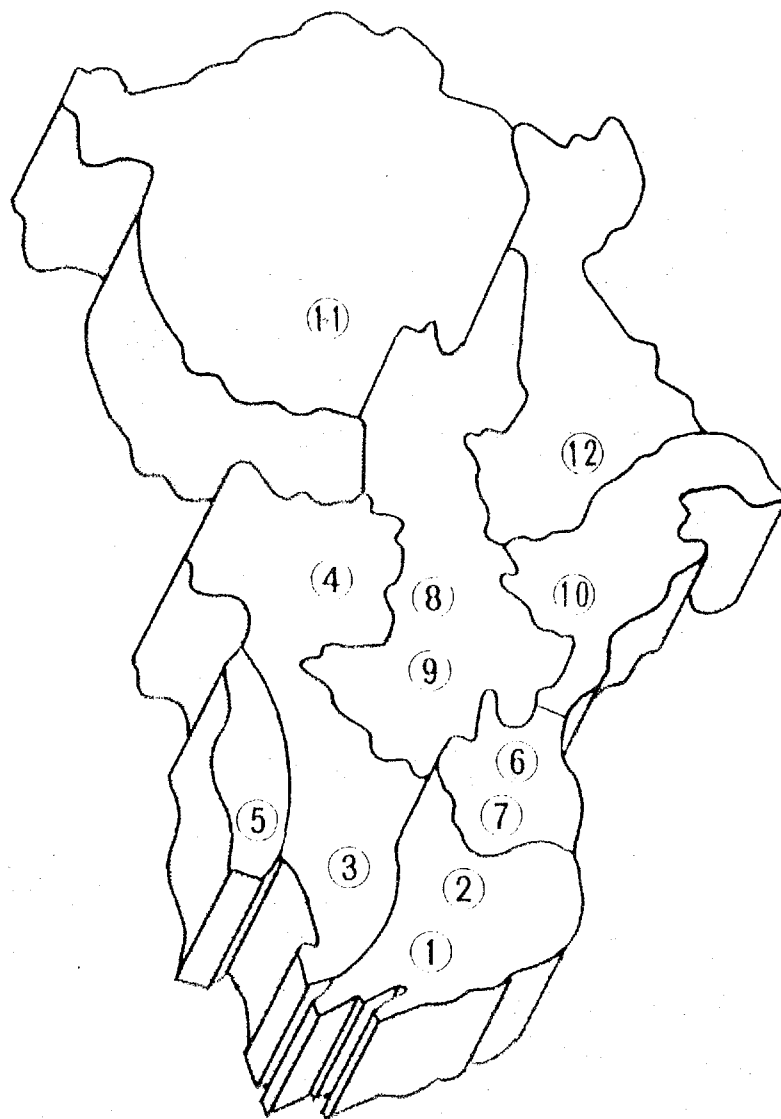


▲ 雑誌コーナー



▲ 一般成人書コーナー

阪神7市1町の図書館



- | | | |
|-------------|--------------|-------------|
| ① 尼崎市立中央図書館 | ⑤ 芦屋市立図書館 | ⑨ 宝塚市立西図書館 |
| ② 尼崎市立北図書館 | ⑥ 伊丹市立図書館 | ⑩ 川西市立中央図書館 |
| ③ 西宮市立中央図書館 | ⑦ 伊丹市立図書館南分室 | ⑪ 三田市立図書館 |
| ④ 西宮市立北部図書館 | ⑧ 宝塚市立中央図書館 | ⑫ 猪名川町立図書館 |

震災の記録

● 一九九六年五月三〇日

● 編者 伊丹市立図書館

● 発行者 阪神地区公共図書館協議会

● 印刷 伊丹市立図書館

編集余滴

事務局としては、各館の被害概要
を取りまとめるのが精一杯で、充分
な編集が出来ませんでした。ご理
解頂きたいと存じます。

事務局